

2000年度

# 講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

面 積 算 法

東京大学出版会

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	11	通期	4単位	荒木英一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>前期は、日本に関して書かれた英文の新聞記事や雑誌記事を読んでいきたい。素材は、BBC や Financial Times などのインターネットサイトから読みやすそうなものを適宜選んでプリントのかたちで配布する。慣れてきたら、Newsweek や Economist などの雑誌からも若干の記事を読んでみたい。</p> <p>後期は、参考文献の最後にあげた P.クルーグマンの原論文の読破にチャレンジしよう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>具体的な進行速度は、講義の進行度合と受講者の要望に応じて、決めていく。講義のかたちは、毎回の範囲と報告担当者を定めて、輪読のかたちですすめる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>報告回数を重視する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>BBC のニュースサイト  <a href="http://news.bbc.co.uk">http://news.bbc.co.uk</a>            Yahoo の Japan News  <a href="http://headlines.yahoo.com/Full_Coverage/World/Japan/">http://headlines.yahoo.com/Full_Coverage/World/Japan/</a>            P. Krugman の日本に関する論文集  <a href="http://web.mit.edu/krugman/www/jpage.html">http://web.mit.edu/krugman/www/jpage.html</a></p>			
<p>[教科書]</p> <p>プリントを配布。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	12	通 期	4 単位	カ イ 何 為
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>中国経済文献の講読10冊、中国語の読解力を高める。中国経済に対する理解を深める効果を図る</p>	<p>[講義計画]</p> <p>通年講義で100ページを讀み 学期10ページを讀む            1講義毎に5-6ページを讀む。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて参考文献を指定する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。右記講義の際に随時教材を配布する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	13	通 期	4 単位	桂 昭 政
<b>[講義概要・学習目標]</b>  経済のグローバル化、インターネットの普及とともに現在、英語を使いこなす能力が要求されるようになってきている。本講読ではあまりふれられない英語の原書にもとづいてこの機会に英書の読む力の向上を目指していきたいと思う。英文の内容はマクロ経済学、あるいは国民経済計算でおなじみの国民所得にかんするものであり、英文に取り組む前に国民所得については十分説明を行うので、積極的にチャレンジしてほしいと思う。	<b>[講義計画]</b>  購読のまえに内容の解説を行い、それに基づいて訳文を次回の授業までに準備し、当日発表してもらう。			
<b>[成績評価の方法]</b>  出席、発表、テストによる総合評価	<b>[参考文献]</b>  マクロ経済学、国民経済計算、経済統計の各テキストの国民所得の解説。			
<b>[教科書]</b>  Beckerman, W., An introduction to National Income analysis (3rd edition)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	14	通 期	4 単位	佐々木 和 子
<b>[講義概要・学習目標]</b>  Final Reports of the United States Strategic Bombing Survey, Kawanishi Aircraft Company, Corporation Report No. III (米国戦略爆撃調査団報告書会社報告川西航空機)の購読を通じて、太平洋戦争期の日本の航空機工業特に川西航空機について概観する。  米国戦略爆撃調査団報告書には、戦時経済部門の46巻が含まれており、15年戦争期の日本経済の発展と崩壊の過程を示す重要な資料となっている。報告書の購読をおこなうとともに、川西航空機と地域との関係や報告書に使われた資料保存についても言及する。	<b>[講義計画]</b>  授業は、事前に報告担当者を決め、テキストを翻訳し、適宜解説をおこなう。前期には、調査団の組織、報告書の全体像にもふれる。後期には、川西航空機の各製作所毎の報告書を中心に読み進めていく。			
<b>[成績評価の方法]</b>  成績は、出席状況と報告内容によって総合的に評価する。報告をおこなわなかった者にはレポートを課す場合がある。	<b>[参考文献]</b>  授業中に適宜指示する。			
<b>[教科書]</b>  テキストは、随時コピーして配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	15	通 期	4 単位	竹 原 憲 雄
<b>【講義概要・学習目標】</b> 日本は8年連続世界一の援助国である。我々の税金や郵便貯金が、年間1兆円以上発展途上国にわたっているが、この援助は本当に役に立っているのだろうか。 このことは発展途上国の国民生活ばかりか、我々納税者にとっても切実な問題である。それはまた「援助大国」日本の実像と、環境やエイズなどグローバルな問題の行方を示している。 これらをふまえて「南北の時代」21世紀を展望してみたい。	<b>【講義計画】</b> (前期) 日本の援助の概要を知ったうえで、基本的な課題に関係する文献を読む。 (後期) 発展途上国からみた日本の援助の実情を紹介したものをとりあげる。 全員が分担して翻訳する。			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席状況、分担部分の翻訳、および前・後期末の試験によって総合評価する。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 随時コピーを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	16	通 期	4 単位	吉 見 研 次
<b>【講義概要・学習目標】</b> この授業は、毎回、受講生諸君が英文テキストの訳読を行っていくという方式で運営される。テキストには英米の会社法の基礎的な文献を選ぶつもりである。訳読を通してテキストの内容を把握するとともに、英文読解力の向上をめざすことが、主たる学習目標となる。 この種の授業においては、受講生自身の十分な予習が不可欠である。勉学意欲の強い学生諸君の受講を期待したい。	<b>【講義計画】</b> 毎回、学生諸君にテキストの内容を順次訳読してもらおう。会社法特有の用語や概念については、その都度必要な解説を加えるようにしたい。			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席状況、訳読の内容等を総合的に判断して評価する。これとは別にテストも行うかどうかは、今のところ未定である。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 授業時にコピーを配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	17	通 期	4 単位	寺 中 直 人
<b>[講義概要・学習目標]</b> <p>この講義では、インターネットを使い、欧米の都市問題や土地・住宅政策を学習する。授業では、個別に課題を与え、それに関するレポートを電子メールその他の手段で提出してもらおう。それをもとに、翻訳上の問題点やさらに詳しく調べることがらについて指示する。</p> <p>この講義で習得してもらいたいことは、英語による情報収集の技術とその結果を他者に伝える能力である。したがって、英語の読解力とともに、まともな日本語で文章を作成できるかが問われる。</p> <p>電子メールを基本的な連絡手段とするので、個々の授業の出席は必須ではないが、最初はパソコンの使い方、インターネットによる情報収集の方法や電子メールの送り方等、技術的なことがらを中心に説明するので、履修者は必ず出席すること。</p>	<b>[講義計画]</b> <p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーリング</li> <li>2. インターネットによる情報収集技術(1)</li> <li>3. インターネットによる情報収集技術(2)</li> <li>4. 代表的なサイトについて</li> <li>5. 課題の提示と基礎的な知識の講義</li> <li>6. レポートの結果について</li> <li>7. 以下、課題の説明とレポートに対する指示の繰り返し</li> </ol> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>以下、課題の説明とレポートに対する指示の繰り返し</p>			
<b>[成績評価の方法]</b> <p>レポートの内容を中心に評価する。学年末試験は、代表的なサイトの英語が理解できているかどうかを試す。詳しくは、最初の講義で説明する。</p>	<b>[参考文献]</b> <p>石橋太郎・遠山弘徳・柴田透『はじめようインターネットで経済学』（日本評論社、1998年）  新田俊三・中山光太郎『社会経済のためのインターネット入門』（時潮社、1997年）</p>			
<b>[教科書]</b> <p>なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	18	通 期	4 単位	中 村 征 之
<b>[講義概要・学習目標]</b> <p>経済システムのボータレス化とともに、「国民国家」の黄昏（たそがれ）が指摘され、それとともに、地方政府の機能強化を求める動きが世界各地で大きくなっている。このような地域を基盤とした地方政府を支える[自治]の論理はどこから生まれ、どのようにして、近代的政治において欠かすことのできないシステムになりえたのか。その歴史、理念の展開をたどるテキストを通して「自治」の思想と構造への理解を深める。</p>	<b>[講義計画]</b> <p>教科書を精読、参考文献を採用しながら、英文解読のスピードよりも、内容理解を深めることに主眼を置く。</p>			
<b>[成績評価の方法]</b> <p>2回の定期テストによる。</p>	<b>[参考文献]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アメリカの民主政治」A・トグヴイル（講談社学術文庫）</li> <li>・Tony Byrne, Local Government in Britain, Penguin Books.</li> <li>・「近代の政治思想」福田敏一（岩波新書）</li> </ul>			
<b>[教科書]</b> <p>・Alan Norton, International Handbook of Local and Regional Government, Edward Elgar Publishing Limited, 1997.</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	19	通 期	4 単位	瀧 田 博 男
<b>【講義概要・学習目標】</b> 経済書・雑誌論文・新聞記事などを読み、英文の情報をつうじて今日の世界・日本経済の現状とその抱える諸問題を広く理解できるようにしたい。 継続しての学習努力が必要なので出席を重視します。宿題も課します。授業には辞書必携。 テキストは当方でコピーし、授業時に配布します。	<b>【講義計画】</b> 〈前期〉平均的な英語読解力に配慮し、比較的やさしい新聞経済記事を中心にし、経済英語に慣れるようにします。  〈後期〉やや難しい経済論文に重点を移す予定。			
<b>【成績評価の方法】</b> 平常成績（出席状況、毎回の課題・宿題にたいする努力状況）と年2回のテストの成績で総合評価します。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	20	通 期	4 単位	原 正 行
<b>【講義概要・学習目標】</b> 経済学に関する英文を読むことによって経済学の基礎理論を学習すると同時に、英語の読解力を高める。	<b>【講義計画】</b> 事前に担当を決め、発表および討論を行なう。			
<b>【成績評価の方法】</b> 平常点	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> Economics by P.Samuels & W.Nordhaus, 13th edition, McGraw-Hill Book Co.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	2 1	通 期	4 単位	藤 岡 純 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>スウェーデンの経済と税制について英語で読む。 スウェーデン経済は、1993年をボトムとする不況を克服して、今、繁栄の局面にある。どのように、そして、なぜ、不況を克服することができたのか？ また、福祉社会を支える税制は、どのように日本と異なるのか？ 英文を読みつつ、考えてみよう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>Swedish Instituteの公表しているFact Sheetsを読んでいく。 文章は比較的平易であるが、できるだけ多読するようにする。</p> <p>受講者は、毎回予習が必要である。基本的な経済用語を学習し、英語に慣れ、できるだけ早く読めるように努力する。</p> <p>遅刻は欠席に準じて扱う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点（出席と訳）およびレポート</p>	<p>[参考文献]</p> <p>岡沢憲英・宮本太郎編『スウェーデンハンドブック』早稲田大学出版部</p>			
<p>[教科書]</p> <p>コピーして配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	2 2	通 期	4 単位	藤 岡 純 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>アメリカの2000年度予算を読む。 アメリカでは、1980年代以降、双子の赤字と言って、巨額の財政と貿易の赤字が続いてきた。しかし、近年、景気の上昇とともに財政赤字がなくなり、財政黒字の時期に入った。このまま黒字は続くのであろうか？ 2000年代のアメリカを予見することになるアメリカ2000年度予算について読み、認識を深める。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>大統領の議会への予算説明 The Budget Message of the President から読み始める。大統領の提案は議会で修正され決定される。</p> <p>受講者は、毎回予習が必要である。基本的な経済用語を学習し、英語に慣れ、できるだけ早く読めるように努力する。</p> <p>遅刻は欠席に準じて扱う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点（出席と訳）およびレポート</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>コピーして配布する。</p>				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	23	通 期	4 単位	前 田 治 郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ヨーロッパ中央銀行 (ECB) が公表する月報、スピーチ (英文) などを素材として、現代ヨーロッパの金融問題を考える。ほぼリアルタイムで動きを追うことになるので、日本語新聞報道も参考にできる。基本用語にさえ慣れれば、簡単に読みこなせると思われる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>輪読形式で、日本語に翻訳する。なお、予習なしの「出席」は、出席とはみなさない。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席及び授業中の平常評価</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>テキストはコピーして随時配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	24	通 期	4 単位	モグベル ザファル
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教科書の題名を直訳すると「日本は何故ころんだのか」となる。その内容は、バブル経済崩壊後の日本経済の長期不振の原因と打開策の検討である。90年代の初期には一人当たりGDPで世界のトップに立っていた日本も、最近のOECDの統計によると第7位まで後退、平成大不況からの本格回復が後2-3年の歳月を要するのであれば10位以下への転落は必至と見られている。この大後退は何故起こったのか、その背景にはどのような制度的、構造的、政策的問題があったのかなどについて英語で学習する。</p> <p>英語の講読をより容易にするために、最初は「経済学基礎用語」(約200の英語の用語とその関連語)を学習し、用語の意味・由来などの十分な理解を目指す。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>&lt; 前期 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済用語の学習</li> <li>2. Some Economic Policy Issues In Japan</li> </ol> <p>&lt; 後期 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. Japan's Business Culture and Society</li> <li>4. Why Has Japan Been Stumbling For So Long?</li> </ol>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を考慮しながら、前期・後期終了時に行う試験の結果によって判定する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>Craig Freedman(ed), 'Why Did Japan Stumble?' (Edward Elgar)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	25	通期	4単位	ヤン カンス 梁 官 洙
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>&lt;講義概要&gt; TEXTを中心にして国際及び世界経済の主要問題について講義する。特に、戦後世界政治経済体制の確信といわれるIMFとGATT体制の形成・変化・再編成までの諸要因について発展途上国の経済成長システムと関連させながら講義する</p> <p>&lt;学習目標&gt; 英文の基礎的経済専門用語をしっかりと学習する。テキストは20章で構成されているので、1年間全部講読する。その上、経済のグローバル化がますます進んでいる中で世界経済構造の変化要因のポイントを理解してもらう。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦後世界経済体制の形成</li> <li>2. IMF, GATTについて</li> <li>3. 世界貿易機構 (WTO)の創立の要因</li> <li>4. 南北問題</li> <li>5. 発展途上国の成長システム</li> </ol>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、授業中の態度、1-2回の期末試験を総合して評価</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>John Drucker, Understanding World Economy (入門・世界経済のしくみ) Macmillan Languagehouse, 1996年初版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	31	通 期	4 単位	北 野 誠 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>前年の時を振り返る。 National Association of Social Workers のEncyclopedia of Social Work 19版 そのうち2-3のタイトルを選んで全訳トライアル</p>	<p>[講義計画]</p> <p>毎月1タイトル(英文10%-30%程度) 前期 3~4 タイトル 後期 3~4 タイトル</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>自分の担当部分の責任をどの程度果たしたか、及び 全体の発表にどの程度貢献したかに基づいて 評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>今年書評研究会「リサーチ・コース英和辞書」レベル を参考にす。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>必要の資料等は、講義中に適宜配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	32	通 期	4 単位	上 田 修
<b>【講義概要・学習目標】</b> <p>この 20 年ほどの間に、労働をめぐる世界は大きく変わった。競争、規制緩和の導入により福祉国家体制が陥った陥穽の克服を掲げるサッチャー、レーガン政権の登場とそれともなう労働政策の転換、グローバリゼーションの展開と世界的競争の激化といった経済、市場競争の変化、これらと軌を一にして、戦後安定期に形成された労使関係にも地殻的変動といってもよい変化が生じた。この授業では、この点を念頭をおき、①戦後における労使関係の定着、②新保守主義の労働政策と労使関係の変容、③グローバリゼーションと転換期の労使関係といったテーマを軸として立て、それぞれの点を扱った文献を講読する。</p>	<b>【講義計画】</b> <p>先に示した主要論点について説明をおこなった上で、各種文献を配布するので、それを受講生が翻訳する形式をとる。授業では、内容の理解に主眼をおく。</p>			
<b>【成績評価の方法】</b> <p>①出席、②読解力、③小試験を総合勘案しておこなう。</p>	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> <p>上記の点に関連する文献を、コピーして配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	33	通 期	4 単位	小 川 登
<b>【講義概要・学習目標】</b> <p>ドップの古典的名著『賃金論』の逐語訳を通じて、社会科学入門を究めたい。M. Dobbの<i>Wages</i>はケインズが初代編集長をつとめた The Cambridge Economic Handbooksのなかの 1 冊であり、いまや古典的名著といえよう。初版は 1928年。  ドップの英語・文体は難解そのものである。キングス・イングリッシュ（今様に言えばクイーンズ・イングリッシュ）で、一文が長いのが特徴。言い回しが複雑でワン・パラグラフが、なにしろ長いので、和訳していくのが難しい。だから、逆に訳しがいがある。  ドップの<i>Wages</i>は、賃金論というよりも賃金制度論と言ったほうが適切で、資本主義経済全般の制度分析となっている。  第 1 回目の講義で 15 名以下の学生数にしぼる（抽選で決める）。よって、第 1 回目の講義に欠席した学生は受講不可とする。</p>	<b>【講義計画】</b> <p>ドップの英語文が難解そのものなので、英和辞典を片手に持ち、ワンセンテンスづつ 逐語訳（直訳）をしていただく。訳する人は、無差別に、その場、その場で当てていく。  （テキストは絶版になっているので、当方でコピーして配布する）</p>			
<b>【成績評価の方法】</b> <p>何回ワンセンテンスを訳したかによる。単位認定は出席者の我慢強さによるものとし極めて厳しくする。</p>	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> <p>M. Dobb, <i>Wages</i>, James Nisbet, 1958.</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	34	通 期	4 単位	津金澤 聡 廣
<b>【講義概要・学習目標】</b> 日々発行される英字新聞をテキストに、 基本的な時事英単語の修得をとおして、 英字新聞への読解力を高めることを 学習目標とする。	<b>【講義計画】</b> 毎週、毎週、基礎的な時事英単語について その学習成果をテストし、英検を重ねる。 その上で、下記参考書等とおしてさらに時事 英語について理解を深めたい。 また、日々発行される英字新聞をテキストに、 その講読を行う。			
<b>【成績評価の方法】</b> 平常英と学期末試験による総合評価	<b>【参考文献】</b> 岩津圭介『最新日米表現辞典』小学館、1984年。			
<b>【教科書】</b> 特になし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	35	通 期	4 単位	西川 一廉
<b>【講義概要・学習目標】</b> 近年、日本でも女性の職場進出が旺盛になり、男女雇用均等法など法整備も 進んできている。しかしそれにともない新たな問題も浮上してきた。その最大 のものは仕事と家庭の両立である。職業的キャリアも重要課題であるが、家庭 的キャリアもまた同様に重要課題であり、そのバランスはなかなかの難問であ る。さらに地域社会との関係もある。その点で先行する米国の実状はどうだろ うか。 そこで最近入手した米国の働く家族の実態調査報告書を読むことにする。米 国の現状を読むと同時に日本の実状についても考えたい。	<b>【講義計画】</b> 調査報告書を読み進め、平行して日本の実態についても各種調査結果や新聞 などを参考にグループ討議する。			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席、事前学習、教室での報告、討議への参加などをもとに総合的に評価 する。	<b>【参考文献】</b> 随時、指示する。			
<b>【教科書】</b> 授業開始時にプリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	51	通 期	4 単位	岡 本 英 嗣
<b>[講義概要・学習目標]</b>  本年度はピーター・ドラッカーの Managing in a Time of Great change を使って現在の Management の問題を取り上げる。 内容はバラエティに富んでおり、全体に易しい内容である。だいたい 2～3回で1センテンスが入れ替わるようになっている。学生は高校時代に使った辞書でよいから、毎回持参して分からない単語はこまめに調べてほしい。	<b>[講義計画]</b>  前期・後期 1.The Theory of the Business 2.Managing the Family Business 3.The New Society of Organizations 4.There 's Three kinds of Teams 5.Trade Lessons from the World Economy 6.China 's Growth Markets 7.And so on			
<b>[成績評価の方法]</b>  出席状況と自発的な発表（文章訳）、並びに前期・後期の試験（全訳）で総合評価する。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>  Peter F. Drucker, Managing in a Time of Great change, 1995. を使用するが、プリントを使うので学生は購入の必要はない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	52	通期	4単位	ヤン 梁 カンス 官 洙
<b>[講義概要・学習目標]</b> <b>&lt;講義概要&gt;</b> TEXTを中心にしてライフスタイルの変化によって生み出される需要を早くキャッチする新しいビジネスについて講義する。特に、消費者が新しい需要を造り出す経済社会条件の変化と関連させながら共に考えて見る。  <b>&lt;学習目標&gt;</b> テキストは24章で構成されているので、前期・後期それぞれ半分分けて、1年間全部講読する。望ましい新経営について討論し、自分の考えを創り出せるように授業を進める。	<b>[講義計画]</b>  1. 最近経済構造の変化 2. 新しい需要創出について 3. 消費者ニーズの多様化 4. ベンチャー企業 5. 新経営とは何か			
<b>[成績評価の方法]</b> 出席、授業中の態度、1-2回の期末試験を総合して評価	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>  Joann Parochetti・佐藤史郎, NEW BUSINESS FOR CHANGING LIFESTYLES (ライフスタイルとニュービジネス) SEIBIDO (成美堂), 2000年初版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	53	通 期	4 単位	柴 理 梨 亜
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>国際化や情報化が進むなか、現代のビジネスマンにとっては英文の情報を直接取り入れ、分析し、利用することが不可欠となっている。特に会計の分野では企業の情報開示が重視され、24時間世界中で投資活動が行われる今日では会計情報を読み取る力が重要となる。</p> <p>この科目では、国際会計に関するテーマを中心に会計の専門用語及び基準等の知識を身につけることを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>事前に担当を決め、プリントの翻訳と解説をして、全員でその内容を議論して確認する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の報告内容、レポート、クラスでの発表を総合的に評価する。無断欠席は減点になります。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>テキストはコピーして随時配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	54	通 期	4 単位	津 戸 正 広
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>広い意味で経営学に関する新聞や雑誌の英文記事を素材にして、議論を重ねます。英語学の授業ではないので、むしろ経営学的センスを磨くことを主要な目標にします。最近の話題を取り上げるので、最も現代的なテーマについて考える良い機会となります。経営や経済に関する用語はもちろんのこと、政治・法律・社会・文化などに関する用語も身につけていきます。</p> <p>毎回、できるだけ多くの受講生に指名しますので、予習を怠らないようにしてください。進度はそれほど速くはないので、丹念に辞書をひく習慣をつけてください。ただし、翻訳だけに偏らずに、受講生に率直な意見を出しあってもらい、授業を盛り上げます。英訳だけでは、深い印象が残らないし、新たな興味を引き起こしにくいからです。</p> <p>英語が得意な人にも不得意な人にも、やる気をおこさせる授業にしていきたいと思っています。</p> <p>社会に出てからも、積極的に活躍できるよう、そのための基本的な能力を積み上げていきます。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>4月および5月は、なるべく基本的な話題を取り上げて、英文の記事に慣れてもらいます。例えば、日本の企業の現状、最近の勤労者の姿勢・傾向などに関する素材を取り扱います。また、勉強の仕方についても、アドヴァイスします。</p> <p>6月および7月は、経営学に関する特定の問題についての記事を取り上げ、やや深く議論をします。例えば、バブル崩壊後の企業の現状、日本的経営の変質などに関する話題を扱います。</p> <p>9月および10月は、英文を読みこなすだけでなく、各受講生に自分の意見を発表してもらい機会を増やします。特に、日本の現状を打開するための方策などについて、率直に意見を交わしたいと思います。</p> <p>11月から1月までは、多くの受講生が興味を持っているテーマを見極め、そのテーマを集中的に議論します。</p> <p>1年間の授業を通じて、自信を持って議論できるテーマをいくつか身につけてもらいます。この自信は、他の諸問題を考察する場合にも、役立ちます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への出席を最も重視します。さらには、経営学理解の到達度、討論への熱意、積極的な質問なども総合的に考慮して評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて指示しますが、日頃から現代の日本に生じている諸問題について、新聞・雑誌・テレビなどを通じて、よく知っておくことが、最良の参考になります。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>プリントを配付します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	55	通 期	4 単位	堀 友 章
<b>【講義概要・学習目標】</b> 本講義は、College Accountingの講読により、複式簿記の原理、会計の仕組みを理解し、会計処理の技能を高めることを目標にする。 教科書以外に、計算問題を記載したプリントを、毎講義時に配布する。受講生は指示された会計処理を行い、答案を提出しなければならない。	<b>【講義計画】</b> 1 ACCOUNTING CONCEPTS AND PROCEDURES 2 DEBITS AND CREDITS: ANALYZING AND RECORDING BUSINESS TRANSACTIONS 3 BEGINNING THE ACCOUNTING CYCLE 4 THE ACCOUNTING CYCLE CONTINUED: PREPARING WORKSHEETS AND FINANCIAL REPORTS 5 THE ACCOUNTING CYCLE COMPLETED: ADJUSTING, CLOSING, AND POST-CLOSING TRIAL BALANCE 6 MANUFACTURING ACCOUNTING			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席率、毎週の授業において提出するレポート、期末テスト等で評価する。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> JEFFREY SLATER College Accounting <small>SIXTH EDITION</small> Prentice Hall				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	56	通 期	4 単位	隅田 孝
<b>【講義概要・学習目標】</b> マーケティングをいかに効率良く戦略的に計画・実践するかということはほとんど全ての企業にとって非常に重要な課題である。また、企業はマーケティングを計画・実践するには生産、製品、販売、顧客、市場などさまざまな環境と密接な関係をもっていることを認識していなければならない。 マーケティングの核となる概念をしっかりと理解した上で、以下のようなくことも学んでいく。 企業が顧客のニーズ(needs)やウォンツ(wants)を認識し、それらに対して4P (Place, Price, Product, Promotion)を柱としたマーケティング・ミックスをどのように構築するのか。企業が自社製品を市場に送り出す際に採られる市場細分化がどのように行われるのか。事業ポートフォリオ、製品差別化、ニッチ戦略などマーケティングに関する事項について学習する。さらに顧客(消費者)が行う選択、購買、使用、廃棄といういわゆる消費者行動についても詳しく学んでいく。 経営学およびマーケティングに関する数多くの専門用語を英文で学んでいくことになるため、受講生各人は予習が不可欠である。	<b>【講義計画】</b> 1. マーケティングの概念 2. 生産、製品、販売、市場の概念 3. 顧客価値と顧客満足について 4. 企業のマーケティング環境 5. マーケティング・ミックスと4P (Place, Price, Product, Promotion) 6. 製品差別化 7. 市場細分化 8. 消費者行動1 9. 消費者行動2 以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> Kotler, Philip(1994), <i>Marketing Management</i> , 8th ed., Prentice Hall. より抜粋しプリントを配布する。				





科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリス文学史 I (旧英文学史)		通 期	4 単位	金 城 盛 紀
<b>[講義概要・学習目標]</b>  イギリスの文学をその中世における起源より 17 世紀まで、できるだけ作品に触れながら跡づける。時代背景や作家・作品の特徴などにも注意を向けるが、無味乾燥になりがちな抽象的説明は最小限にとどめて、作品を読むことによって文学の流れを体験できればと願っている。そのためには相当の予習を必要とすることを強調しておきたい。努力はイギリス文学の豊かさ面白さを味わう形で十分に報いられると思う。	<b>[講義計画]</b>  指定テキスト以外にプリント資料も使用する。作品はできるだけテープ音声でも聴いていただき、対象によってはビデオも利用する。			
<b>[成績評価の方法]</b>  試験と平常点	<b>[参考文献]</b>  適宜に指示する。			
<b>[教科書]</b>  郡山直 (編注) <i>A New Anthology of English Literature</i> (英文学代表作品集) (北星堂書店)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																																
アメリカ文学史 (旧米文学史)		通 期	4 単位	中 井 紀 明																																
<b>[講義概要・学習目標]</b>  『白鯨』『スカーレット・レター』『偉大なるギャツビー』『老人と海』『ホストンの人々』などは映画でお馴染みの作品だが、実はこれらはアメリカ文学史上傑作と認められている小説を映画化したものである。このような作品を産みだした源流を、英国から北米大陸への移民が始まった 17 世紀にまで遡り、そこから現代までのアメリカ文学の流れを講義をする。現代文学を理解するにはその源流をしっかりと把握しておかなければならないので、毎回作品の原典を挿さながら講義を進めて行く。英語としっかり格闘しながら毎回渡される資料を読んでもらう。	<b>[講義計画]</b>  年間講義予定 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">前期</th> <th colspan="2">後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-2</td> <td>アメリカへの移民 ピューリタンの思想と文学</td> <td>1-2</td> <td>アメリカ文学の独立 Melville</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>18 世紀の啓蒙主義</td> <td>3-4</td> <td>文学思潮の変化 Realism の文学 Twain, Howells, James</td> </tr> <tr> <td>5-6</td> <td>アメリカ文学の独立 Irving, Cooper, Bryant, Behmings</td> <td>5</td> <td>文学思潮の変化 Naturalism の文学 Crane, Norris, Dreiser</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>アメリカ文学の独立 Poe</td> <td>6-8</td> <td>両大戦間の文学 Cather, Anderson, Fitzgerald, Hemingway, Faulkner</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>アメリカ文学の独立 Emerson, Thoreau</td> <td>9</td> <td>両大戦間の文学 Frost, Sandburg, Stevens, Cummings</td> </tr> <tr> <td>9-10</td> <td>アメリカ文学の独立 Hawthorne</td> <td>10-11</td> <td>第二次世界大戦後のアメリカ文学 南部の作家、黒人作家、ユダヤ系の作家</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>アメリカ文学の独立 Whitman, Dickinson</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				前期		後期		1-2	アメリカへの移民 ピューリタンの思想と文学	1-2	アメリカ文学の独立 Melville	3-4	18 世紀の啓蒙主義	3-4	文学思潮の変化 Realism の文学 Twain, Howells, James	5-6	アメリカ文学の独立 Irving, Cooper, Bryant, Behmings	5	文学思潮の変化 Naturalism の文学 Crane, Norris, Dreiser	7	アメリカ文学の独立 Poe	6-8	両大戦間の文学 Cather, Anderson, Fitzgerald, Hemingway, Faulkner	8	アメリカ文学の独立 Emerson, Thoreau	9	両大戦間の文学 Frost, Sandburg, Stevens, Cummings	9-10	アメリカ文学の独立 Hawthorne	10-11	第二次世界大戦後のアメリカ文学 南部の作家、黒人作家、ユダヤ系の作家	11	アメリカ文学の独立 Whitman, Dickinson		
前期		後期																																		
1-2	アメリカへの移民 ピューリタンの思想と文学	1-2	アメリカ文学の独立 Melville																																	
3-4	18 世紀の啓蒙主義	3-4	文学思潮の変化 Realism の文学 Twain, Howells, James																																	
5-6	アメリカ文学の独立 Irving, Cooper, Bryant, Behmings	5	文学思潮の変化 Naturalism の文学 Crane, Norris, Dreiser																																	
7	アメリカ文学の独立 Poe	6-8	両大戦間の文学 Cather, Anderson, Fitzgerald, Hemingway, Faulkner																																	
8	アメリカ文学の独立 Emerson, Thoreau	9	両大戦間の文学 Frost, Sandburg, Stevens, Cummings																																	
9-10	アメリカ文学の独立 Hawthorne	10-11	第二次世界大戦後のアメリカ文学 南部の作家、黒人作家、ユダヤ系の作家																																	
11	アメリカ文学の独立 Whitman, Dickinson																																			
<b>[成績評価の方法]</b>  前期・後期の定期試験(下記の教科書を精細に読んでいるかどうか、毎回配布される資料をその意義を理解して読んでいるかどうかの二つをチェックする試験になる)、および平常の努力点。出席重視。	<b>[参考文献]</b>  『コロンビアアメリカ文学史』(山口書店)など。(そのつど授業中に紹介する)																																			
<b>[教科書]</b>  谷本泰三他著『初めて学ぶアメリカ文学史』(金星堂、1995)																																				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語学概論	01	通 期	4 単位	(前期) 野 原 康 弘 (後期) 林 宅 男
<b>[講義概要・学習目標]</b>  英語学とは、英語を対象とする言語学、すなわち言語についての科学であり、その目的は人間言語の持つ本質や原理に基づき、英語という個別言語の持つ性質や現象を記述、説明することである。この授業では、英語の特質、現象について、その通時的及び共時的概要を紹介する。すなわち、ここでは英語に関して、その発達の歴史、地域差、音声とその結合の型、語彙構造、形式上及び使用上の意味などについて、時には他の言語と比較しながら、概説する。	<b>[講義計画]</b>  前期 1. 英語学とは何か 2. 英語の歴史 3. 発音と綴り字の変化 4. 語形と統語法の変化 5. アメリカ英語とイギリス英語 6. 世界の英語  後期 1. 言語について 2. 音声学 3. 形態論 4. 統語論 5. 意味論 6. 語用論			
<b>[成績評価の方法]</b>  前期と後期の試験の他、出席、レポート、小テストなどにより総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b>  授業中にそれぞれ指示する。			
<b>[教科書]</b>  『英語学概論』 安藤貞雄・小野稜 英潮社 (1999)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語学概論	02	通 期	4 単位	三 宅 亨
<b>[講義概要・学習目標]</b>  英語学(English Linguistics)は、英語という言語の構造や機能に関する科学的研究である。英語の音声・形式・意味に関する諸領域における研究成果を紹介すると同時に研究方法についても言及したい。現代の英語を様々な角度から取り上げるだけでなく、歴史的な観点から英語の発達過程についても考察する。また、言語習得理論や社会言語学などの英語学の関連諸分野についても論じる。 英語学研究を志す学生や英語教員を目指す学生の受講を歓迎する。講義では、handouts(配布資料)を利用して、教科書には書かれていない内容について話す時間をとりたいので、テキストは予め読んでおいて講義に臨んでもらいたい。	<b>[講義計画]</b>  <前期> 1. 英語学とは(総論) 2. 音声学 3. 音韻論 4. 形態論 5. 統語論Ⅰ(伝統文法) 6. 統語論Ⅱ(構造文法) 7. 統語論Ⅲ(生成文法)  <後期> 1. 意味論 2. 語用論 3. 談話文法 4. 英語史Ⅰ(Old English) 5. 英語史Ⅱ(Middle English) 6. 英語史Ⅲ(Modern English) 7. 社会言語学			
<b>[成績評価の方法]</b>  遅刻や欠席の多い学生には単位を与えない。前期・後期の定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意と小テスト・レポートなどに基づき、総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b>  松浪・池上嘉彦・今井邦彦 『大修館英語学事典』大修館書店 太田朗(編) 『英語学体系』全15巻、大修館書店 その他、テーマごとに指示する。			
<b>[教科書]</b>  石黒昭博他『現代の英語学』金星堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米文学概論	01	通 期	4 単位	岡 田 章 子
<b>【講義概要・学習目標】</b> イギリス文学の中でも長い伝統を持ち、とりわけ秀れた作品の多い詩を中心に、文学とは何かを考えることが本講義の目標である。詩はとかく近づきにくいという印象をもたれることもあるが、本来詩とは口承で語りつがれ、人々に歌われたものである。現代は詩をあまりにもむつかしく考えすぎる弊害があるが、詩の原点に立ち返って楽しく読み進むことのできる物語詩を取り上げて文学の神髄を究める手掛かりとしたい。 物語詩とはお話を語るものである。口承であった伝承バラッドに印刷技術の発明により即興の歌が印刷されて、街頭で売られたブロードサイド・バラッドが加わり、このバラッドの伝統が18世紀以降の英詩に新風を吹き込んだ。さらに19世紀になってロマン派詩人たちが新しい時代風潮の中で多くのバラッドを生み出し、20世紀に入ってもまた新しい思想でバラッドを制作している。まさにお話を語るというのは人間の本性なのであろう。 本講で扱う『英国物語詩14撰』には古いものから新しいものまで、勇敢な恋人の話あり、中世の戦い話あり、船の難破話ありで、さまざまな題材で読者を引きつける。文学の本質である「楽しむ」ということを狙うにはまさにふさわしいものである。ここから出発して学生は文学の興味を広げていくことを願う。	<b>【講義計画】</b> 1. 英詩の概略 2. 詩人の紹介 3. 物語詩鑑賞 4. 文学とは何か			
<b>【成績評価の方法】</b> テストおよび平常点	<b>【参考文献】</b> Iona and Peter Opie, ed., <i>The Oxford Book of Narrative Verse</i> (1983)			
<b>【教科書】</b> 中島久代他編著 『英国物語詩』 (松柏社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米文学概論	02	通 期	4 単位	日 下 隆 平
<b>【講義概要・学習目標】</b> この講義では、作品の講読を通じてイギリス文学を今後学んでゆくうえで、必要となる知識の修得と目標とする。前期は主として、叙事詩や悲劇など文学作品のジャンルや形式に始まって文芸批評の用語や詩型に至るまで、英文学を学ぶうえで当然知っておかねばならない事項を代表的な作品の抜粋を通して学んでゆく。 後期は主として、テーマごとに作品を選んで、19世紀から今世紀初頭にかけて書かれた作品にあたって、その思想・表現などを分析しながら、詩の読み方を学んでゆく。主として扱うテーマは、〈文学に描かれた都市〉そして〈コロニアリズムと文学〉などである。 授業ではハンドアウトを配布して説明してゆく。また、背景を理解するためにビデオテープも用いて行くつもりである。	<b>【講義計画】</b> <b>【前期】</b> ジャンルからみた文学作品 文学作品の形式 詩の種類 詩型と規則：韻律 比喩、神話と象徴。 T.S. Eliot, "The Hollow Men" "The Love Song of J. Alfred Prufrock" <b>【後期】</b> テーマによる文学 1 都市と文学：都市像の変化：19世紀から今世紀にかけて都市はどのように描かれてきたか William Blake, "London", William Wordsworth, "Composed upon Westminster Bridge" James Thomson, "The City of Dreadful Night" Charles Dickens, "Night Walks" T.S. Eliot, "Rhapsody on a Windy Night", "Preludes" Richard Le Gallienne, "A Ballad of London" 2 コロニアリズムと文学：アイルランドを例に W.B. Yeats, "Easter, 1916" ヴィデオ鑑賞 『マイケル・コリンズ』			
<b>【成績評価の方法】</b> 授業中に課すレポートに加えて前期・後期終了時に試験を行う。				
<b>【教科書】</b> M.C. コルカット・上島 (編注)、『現代英詩選』、北星堂 また、授業で毎回ハンドアウト配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語の構造	01	通期	4単位	木村 ゆみ
<b>[講義概要・学習目標]</b> このクラスでは、統語論の観点から文のレベルでの分析をすすめ、高校までに、既習の英語の構造を捉え直し、整理する。また、出来る限り、文レベルを超えた談話レベルにおいても、英語の様々な現象を総合的に捉えたい。	<b>[講義計画]</b> 前期 1 文と発話行為：文の機能 2 文の要素：構成要素の意味役割 3 文の構造：(1) 動詞の型 (2) 形容詞の型 (3) 名詞の型  後期 4 時制と相：(1) 時制 (2) 相 5 注意すべき文法範疇：(1) 法助動詞 (2) 否定 (3) 態 6 情報構造と主題構造			
<b>[成績評価の方法]</b> 前・後期試験、提出物、出席率により評価 遅刻、授業中の私語、居眠り等は、減点の対象となる。	<b>[参考文献]</b> その都度指示する			
<b>[教科書]</b> 村田勇三郎・成田圭市（共著）「英語の文法」（大修館書店）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語の構造	02	通期	4単位	林 宅 男
<b>[講義概要・学習目標]</b> この授業では英語の構造をその形式だけでなく、コミュニケーション活動という観点から多面的にとらえ、その知識を補強、整理する。つまりここでは英語の構造を、統語論/形態論・意味論・語用論という3領域にわたって、各項目をその形式面のみならず、意味や使用の側面からも検討し、言語活動への応用へとつなげる。テキストの各ユニットには、学習する文法項目の形式や意味の理解のための練習問題のみでなく、それを用いた自己紹介、意見発表や、新聞・雑誌など実際の談話の文脈における使用の分析などの課題が含まれており、運用に則した理解を促す為の様々な配慮がされている。	<b>[講義計画]</b> 1. 動詞の時制 2. 動詞の相 3. 主語と動詞の一致 4. 完了の助動詞 5. 状態受動 6. 冠詞 7. 代名詞 8. 目的語補語 9. 主語を修飾する関係代名詞 10. 制限的用法と非制限的用法 11. 関係副詞 12. 形容詞と副詞 13. 相関接続詞 14. 論理的接続語句 15. 談話文法とThere文 16. 副詞節 17. 動名詞と不定詞 18. 完了の不定詞 19. 条件文 20. 仮定法現在 21. 強調構文 22. 前置詞句			
<b>[成績評価の方法]</b> 出席、授業態度、レポート、試験を総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b> 1. 江川泰一郎（著）「英文法解説」金子書房、1993年 2. Leech, G. & Svartvik J. <i>A communicative Grammar of English</i> , Longman, 1994 3. Quirk et al., <i>A contemporary Grammar of the English Language</i> , Longman, 1985			
<b>[教科書]</b> Larsen-Freeman, D., Frodesen, J. & Eyring, J. (著) ; 高木道信、楠瀬淳三、森戸由久（訳著） <i>Grammar Dimensions</i> , 松柏社 1998年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの詩 (英詩の楽しみ) (旧英米文学講読)		前 期	2 単位	岡 田 章 子
<b>[講義概要・学習目標]</b> イギリス文学の中でも詩は格別に高い価値を持つものである。英詩は600年の歴史を持ち、口承の詩から現代の哲学的な詩まで奥の深いものである。作品の中には難解なものも多いが、易しく親しみやすいものを選んで英詩を楽しむのが本講義の目的である。詩は人間のあらゆる感情を美しい言葉によって歌い上げるものである。本講義で使用する詩集は全体に短詩が選ばれ、聞き覚えのある Robert Browning の「時は春、日は朝」と歌われた少女の無心に歌う詩、Robert Burns の「私の恋人は赤い、赤いバラの花」と詠んだ恋の歌、William Blake の「子羊さん、誰がお前を作ったの」と呼びかける羊の歌、Charles Lamb の昔の幼な友達や恋心を抱いた女性などなつかしい顔ぶれを並べた作品などがある。どれを取り上げてこの目まぐるしい社会にあっても、人間の心の奥底に潜む愛情や感動を美しく表現したものばかりである。これらを読みながら詩の鑑賞を深めるために時代の背景や詩の基本的な知識を学んでいく。 学生は毎時間、その日に扱う作品を読んで自分なりの意味を把握して、きちんと出席してほしい。さらに習った詩は暗誦するほど繰り返して音読することが望ましい。その過程で英詩の音や言葉の美しさが理解できるようになるからである。	<b>[講義計画]</b> 1. 英詩の流れ 2. 作品鑑賞と作者紹介 3. 英詩の基本的知識を学ぶ			
<b>[成績評価の方法]</b> テストおよび平常点	<b>[参考文献]</b> Elizabeth Jennings, <i>Let's Have Some Poetry!</i> (南雲堂)			
<b>[教科書]</b> 中西信太郎 『中西英詩選・第1集』(英宝社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの小説 (恋・復習・悔恨) (旧英米文学講読)		後 期	2 単位	中 村 祥 子
<b>[講義概要・学習目標]</b> 『ロビンソン・クルーソー』や『カリヴァー 旅行記』など、18世紀のイギリス小説もなかなか面白いが、これら草創期の小説の面白さといえば、主人公が経験する特異で奇抜な冒険の物語と、そこに込められた作者の社会批評や社会諷刺の精神があると言える。これに対して19世紀のイギリス小説は、描かれる社会背景が一段リアルなものになるだけでなく、主人公の喜び・苦しみ・悩み等が、今日私たちの経験するものとほとんど変わりなく、まるで私たちの身近に起ったことであるかのよりに鑑賞できる。 この講義では、その19世紀イギリス小説の一つ、Elizabeth Gaskell の短編小説 'The Old Nurse's Story' を取りあげる。これは Gaskell の中期の作品で、田舎の古いお屋敷で起きる或る事件が扱われている。そして登場人物たちの恋と復讐と悔恨の物語の背景にある問題点を、作者は	<b>[講義計画]</b> 作者の意図を正確に把握するために、作品を精読する。さらに左記の講義目標に沿って、作品内容の理解を深めていく。一回3〜5ページの英文を読む。 → 鋭く社会的に明らかにしている。 この作品を通して、イギリス小説を読む楽しみを味わいと共に、優れた文学作品の持つ意義と可能性とを様々な角度から考えたい。			
<b>[成績評価の方法]</b> 定期試験の成績と、平常点の総合評価による。平常点には出席点小テストの成績なども加味する。	<b>[参考文献]</b> 授業中に指示する。			
<b>[教科書]</b> Elizabeth Gaskell, 'The Old Nurse's Story,' <i>Nineteenth Century Short Stories</i> , ed. Peter Keating (Longman)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの演劇 (旧英米文学講読) 現代のシェイクスピア		後 期	2 単位	小 野 良 子
<b>[講義概要・学習目標]</b>  シェイクスピア劇の中で<ロマンチック・コメディ>と呼ばれる作品の中から、『お気に召すまま』と『十二夜』を取り上げる。講義では、作品を読みながら、ヒロインの<愛>を中心テーマにおき、シェイクスピアの<ロマンチック・コメディ>の劇世界が持つ祝祭的空間的特質についても考える。 また、作品のテキストを讀みだけでなく、映像を通して、シェイクスピア劇を「見る」楽しさ、「聴く」楽しさを味わう。	<b>[講義計画]</b>  1. 作品講読 重要場面の精読とテーマの整理 2. 映画鑑賞 イギリスを代表するシェイクスピア劇演出家が制作した映画版を見て、<テキストのシェイクスピア>と比較する。 オリヴィエの『お気に召すまま』 BBCの『お気に召すまま』 ケネス・ブラナーの『十二夜』 トレヴァー・ナン『十二夜』			
<b>[成績評価の方法]</b>  1. 小エッセイ 講義終了毎に提出 2. レポート 1点提出(400字×15~20枚)	<b>[参考文献]</b>  講義時に知らせる			
<b>[教科書]</b>  1. William Shakespeare, <u>As You Like It</u> (Methuen) 2. _____, <u>Twelfth Night</u> (Methuen)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの詩 (代表的なアメリカ詩を読む) (旧英米文学講読)		後 期	2 単位	中 井 紀 明
<b>[講義概要・学習目標]</b>  アメリカの詩の歴史を簡単に辿って行きながら、次の十人の詩人の代表的な詩を詳しく読む。 Ralph Waldo Emerson(1803-1882), Edgar Allan Poe(1809-1849), Walt Whitman(1819-1892), Emily Dickinson(1830-1886), Robert Frost(1874-1963), Ezra Pound(1885-1972), T. S. Eliot(1888-1965), Wallace Stevens(1879-1955), Hart Crane(1899-1932), Sylvia Plath(1932-63)	<b>[講義計画]</b>			
<b>[成績評価の方法]</b> 400字詰め10枚~20枚の論文で評価する。 出席重視。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> 7911による。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの小説 無垢を装う悪と人種差別 (旧英米文学講読)		前 期	2 単位	佐々木 英 哲
<b>【講義概要・学習目標】</b> Melvilleの中短編集The Piazza Tales(1856)に収録されている中編小説"Benito Cereno"を取り上げる。主要登場人物は三人である。カトリック教団スペインの奴隷船の船長で、船は黒人奴隷に乗っ取られてしまい、自分は病的で弱々しく気難しい、ある意味では無垢で青年のような特質を併せ持つというのに、事情に疎いアメリカ人の前では白人としての威厳をちらつかせ船長としての面目を繕い、何やら陰謀めいて無気味な素振りさえ覗かせるCereno。白人主人Cerenoに対して従順でそれゆえ無垢な黒人奴隷振りを演じるが、その演技が些か仰々しい余り、グロテスクな感さえ惹きつける反乱主魁Babo。アメリカ船の船長で、民主主義という建前理念と矛盾する奴隷制度を内に抱え込んだビューリタンの国に生まれながら、奴隷制度の内部事情におもてたいくらい無知で背い「無垢」なアメリカ人Delano。そこで二方向から光を照射することで、「Benito Cereno」の分析を試みたい。まずはアメリカ社会、アメリカ文学を考える上で避けて通ることのできない人種問題の側面から作品を読む。アメリカ人Delanoが見落としているものはなにか。すなわち、典型的黒人、典型的旧世界白人という類型(ステロタイプ)枠を擦り抜ける、或いは類型を超えたレヴェルで生じる白人側および黒人奴隷側双方の意識、とはどんなものか。奴隷制を制度として存続することを可能にしている論理の背後で、どのような屈折した人間の心理が控え隠れているのか。奴隷問題は人種(黒人)レヴェルに限定できるか。Delanoが船長を務めるアメリカ船の名は「独身者の喜び号」であるが、この船名はフェミニズムの観点からしても興味をそそられる。「独身者の喜び」は人種(黒人)にどう関わってくるのか。つぎにアメリカ文学でよく指摘される無垢の問題、無垢の可能性という観点から作品に挑む。アメリカ的無垢があるとすれば作品のどこに検証できるのか。当然であるが、本講座では「英語」を読むこと自体を、出発点の基本として重視していることを急いで付け加えておく。	<b>【講義計画】</b> 左記テキストからコピーして使用する。マクロ(巨視)的読み、ミクロ(微視)的読みという両面から作品を攻めていく。前者の攻略法はストーリーの展開とその連続性、非連続性、人物造型における一貫性と矛盾などを把握するために使用する戦略である。後者の攻略法はいわゆる精読という正攻法で、この方法により使われている英語表現を正確に理解し、行間を読むレベルまで進み、作者が言い定めている部分にまで踏み込んでみたい。時間が限られていることに考慮し、精読する箇所をこちらからあらかじめ指定しておくので、受講者は全講その箇所を丹念に予習したうえで授業に臨む。 なお本講座では希望者を募る形式のレポーター制をとる。レポーターはレジュメを用意し、担当箇所のアウトラインを明示し、キー・ワード(フレーズ)、キー・センテンスなどを手がかりに、問題点を指摘し作品解釈を試みる。またレポーターには必要に応じて史的背景なども調べてもらう。あわせてレポーターは授業の最中に会った読みづらい英語表現などを指摘してほしい。日本人研究者による注釈入りのテキストではないので(残念ながらそのようなテキストは見当たらなかった)、英文として難解な箇所があって当然である。こちらから授業時にフォローしたい。 九十分授業の前半をレポーター発表に、後半を指定箇所の精読に割く。このようにして半期の講座で読することを予定しているが、受講者の様子を見ながらペースを定めていきたい。			
<b>【成績評価の方法】</b> 筆記試験は行わず学期末レポートとする。レポーターとしての発表等、授業への貢献度を高く評価したい。当然のことながら出席を重視する。レポーター担当日は休まないようお願いしたい。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> Herman Melville. <i>The Piazza Tales and Other Prose Pieces 1839-1860</i> . Evanston: Northwestern UP.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの演劇 (ウィリアムズを読み直す) (旧英米文学講読)		後 期	2 単位	石 塚 浩 司
<b>【講義概要・学習目標】</b> Tennessee Williams (1911-83)は、アメリカの代表的な劇作家のひとりである。授業では、Williamsの代表作 <i>A Streetcar Named Desire</i> (1947) をとりあげ、現代の視点から解釈する。当たり前のことながら英語で読むので、作品解釈の方法を身につけるとともに、英語能力の向上をはかることが学習目標となる。したがって、毎回の予習は欠かせない。授業は受講学生の数に応じて、演習形式と講読形式を折衷して行う。	<b>【講義計画】</b> 最初の授業で、近代劇の歴史、アメリカ劇作品の歴史を概観したあと、毎回テキストを読んでいく。1回の授業で1場を読み進める予定。			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席状況、発表内容、テスト結果を総合して評価する。	<b>【参考文献】</b> 『講座・英米文学史VI—劇』(大修館書店) 『モダン・アメリカン・ドラマ』(研究社)			
<b>【教科書】</b> <i>A Streetcar Named Desire</i> (金星堂)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米のエッセイ エッセイの楽しみ (旧応用英語講読)		後 期	2 単位	岡 田 章 子
<b>【講義概要・学習目標】</b> イギリス文学は劇、小説、詩ともに傑出した作品を多くもつが、それに加えて独自の味わいをもつものにエッセイがある。日本にも随筆・随想という分野があるが、少しニュアンスが違ふようである。それはユーモアに富み、おだやかな、ほのぼのとした心情を綴り、人に共感を呼び起こすものである。このようなエッセイは Charles Lamb (1775-1834) から始まって今日まで続いている。この伝統の中で秀れた文人のひとりが Robert Lynd で、「20世紀の Lamb」と称する人もある程である。題材は日常的なものが多く、親しんで読むことができる。時に今日の社会事象を取り上げることもあるが、批判したり責めたりするよりは、落ち着いた観察のもとに筆者の心情とアイロニーをこめて、読む人を微笑ませるのである。それでいて随所に鋭い観察眼を光らせている。ユーモアと鋭さと暖かさを兼ね備えたイギリスならではの分野である。 英文は平易なので、学生は十分興味を持って読み進むことができよう。毎時間きちんと出席し、作品を読んでその内容をとらえて、エッセイの楽しみを得てほしい。 本講義で扱う『Tremble to Think』はお菓子の話、眼鏡の話、犬の話から、のろまや無関心といった人の習性などの話題をとり上げて、それを綴る Lynd の心をのぞかせる。	<b>【講義計画】</b> 1. エッセイの概略紹介 2. エッセイの講読・鑑賞			
<b>【成績評価の方法】</b> テストおよび平常点		<b>【参考文献】</b>		
<b>【教科書】</b> Robert Lynd: <i>I Tremble to Think</i> (成美堂)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米の映画 アメリカ映画に見る女と男 (旧応用英語講読)		前 期	2 単位	中 井 紀 明
<b>【講義概要・学習目標】</b> 本年度は「女」と「男」を扱ったアメリカ映画を扱う。 1960年代の後半頃からいわゆるラディカル・フェミニズムという女性の意識の爆発的な覚醒が興る。「個人的なことは政治的なこと」(同性ではなく異性が結び付く結婚、家事労働、子育てといったものはあくまでも家父長制・資本制社会での性差別という政治的な考え方に根ざしている)と主張して、母性・自己犠牲の賛美、性の抑圧、低賃金といった家父長制・資本制社会での女性差別、女性の抑圧者としての男性、男性の暴力と権力といった問題を女性たちは大きな問題として扱うようになった。1970年代になるとラディカル・フェミニズムは女性の文化や共同体を称揚するカルチュラル・フェミニズムへと変遷していく。 1970年代後半には、離婚はアメリカでは流行になったという。これに対応するかのようには、アメリカ映画は離婚を扱うようになった。結婚という「制度」の中で子育てに励みながら家庭を守っていく女性たち、この制度の枠の中で枠を広げようとする女性たち、この制度の矛盾を感じ、それをはみ出る女性像を提示し続ける女性たち。現在ほど多様な女性像が並存している時代はかつてない。この講義では関連のある映画を年代順に並べて「女」と「男」の描かれ方の変遷を辿ってみることにするが、古い作品に描かれている女性観はもう「古い」、現代には通用しない、というわけではない。「古い」女性も依然として「新しい」女性と並存して、現代の女性たちに「女性像」を提示し続けている。	<b>【講義計画】</b> 混乱した男女関係の中で単独で子育てを始め、真剣に子供たちのことを考える父親たち。劇的に変わる女性たちの中であって、男性たちは当惑しながらも新しい女性像に対応した男性像の新しいあり方を模索している。一方、子供たちは、混乱した男女関係の中に巻き込まれて呆然自失している、と言えるだろうか。離婚が子供たちに及ぼす深刻な影響により、結婚制度への「再考」が女性の側にも見られる、と考えるのは希望的観測にすぎないだろうか。 1970年代は女性側からの結婚制度の問い直しが行なわれた時代だ。その問い直しの渦中に巻き込まれた男性たち、子供たちはまだ彼らなりの問い直しの準備ができていなかったように思える。子供たちが「かすがい」の役割を果たす時が再び来るのだろうか。 受講生はレンタル・ビデオ・ショップ、本学視聴覚事務室などで次の作品を借り前もって見ることが要求される。(講義は全員作品を見ているとすることを前提にする。つまり講義中に作品を放映し続けることはない。)またインターネットなどで個々の作品についての情報を集めることも要求される。 It Happened One Night (ある夜の出来事) It's a Wonderful Life (素晴らしき人生) Children's Hour (噂の二人) Guess Who's Coming To Dinner? (招かれざる客) Kramer vs. Kramer (クレーマー vs. クレーマー) Table for Five (五人のテーブル) Nine Half Weeks (ナインハーフ) Basic Instinct (氷の微笑) The Bridges of Madison County (マディソン郡の橋) Philadelphia (フィラデルフィア) Disclosure (隠しカメラ) Jungle Fever (ジャングル フィーヴァー) The Scarlet Letter (緋文字)			
<b>【成績評価の方法】</b> 400字×20枚程度のレポートと平常点で評価する。				
<b>【教科書】</b>				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語統語論Ⅰ 統語論入門 (旧英語学講読)		前 期	2 単位	清 水 真 一
<b>[講義概要・学習目標]</b>  本講では、狭義の文法としての統語論の基本に焦点をあてる。まず、句・文の基本単位としての「範疇」をとりあげ、しかる後に、句・文の基本構造を作り出すための仕組みについての基本的考え方を論じてみたい。学生諸君が統語論への第一歩を踏み出すことができるような講義であれば幸いである。教員志望者はとくにふるって参加されたい。毎回課題を課すると同時に、出席を重視する。	<b>[講義計画]</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自然言語の文法についての基本的な考察</li> <li>• 範疇と素性</li> <li>• 句・文の基本構造</li> <li>• 規則と原理についての導入</li> <li>• 試験</li> </ul>			
<b>[成績評価の方法]</b>  原則として、期末試験、クイズ、出席に基づき総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>  プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語統語論Ⅱ 統率・束縛理論入門 (旧英語学講読)		後 期	2 単位	清 水 真 一
<b>[講義概要・学習目標]</b>  英語統語論Ⅰで論じたところの枠組みを基本とした講義となろう。しかし、本講のみでも完結する講義のかたちをとりたい。そのため、英語統語論Ⅰの復習から講義を始める。その上で、いくつかの英語の現象を観察し、束縛と局所性という概念の導入をおこない、理論の輪郭を浮き彫りにすることを目標とする。なお、最近の理論的展開について若干触れることもある。技術的な事柄については、できうるかぎりわかりやすく解説を加える。教員志望者はとくにふるって参加されたい。毎回課題を課すると同時に、出席を重視する。	<b>[講義計画]</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 復習</li> <li>• 英語における主要な言語現象についての若干の観察</li> <li>• 束縛と局所性について</li> <li>• 試験</li> </ul>			
<b>[成績評価の方法]</b>  原則として、期末試験、クイズ、出席に基づき総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>  プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
意味論（意味論の基礎概念） (旧英語学講読)		前 期	2 単位	林 宅 男
<b>【講義概要・学習目標】</b>  「意味論」は、語や文が表わす内容を研究する分野である。「意味」に関する研究には二つの大きな流れがある。一つは、記号論理学の成果を取り入れた形式意味論等に代表される「客観主義の意味論観」である。もう一つは意味を脳の精神作用の働きとの関係でとらえ、自己の経験に基づく主観的情報処理にかかわる問題であるとみなす「認知主義の意味論観」である。今回は、近年の認知科学の発展と平行して注目を浴びている後者の理論の基礎的内容を扱う。	<b>【講義計画】</b>  (1) 意味論の分野と立場の紹介 (2) 認知意味論とそのアプローチの特徴 (3) 範疇とプロトタイプ (4) 認知モデルの種類 (5) 範疇化モデルの種類 (6) イメージスキーマ  (7) 認知文法 (8) メタファー理論 (9) メンタルスペース理論 (10) 構文研究 (11) まとめ			
<b>【成績評価の方法】</b>  出席、クイズ、課題、試験を総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b>  1. 河上哲作（編著）「認知言語学の基礎」研究社、1996年 2. 山梨正明（著）「認知文法論」ひつじ書房、1995年 3. その他授業中に紹介する。			
<b>【教科書】</b>  1. 杉本公（著）「意味論2」一日英対照による英語学演習シリーズ8 くろしお出版、1998年 2. プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語用論（語用論の基礎概念） (旧英語学講読)		後 期	2 単位	林 宅 男
<b>【講義概要・学習目標】</b>  文脈とは関係なく言語の意味を研究する「意味論」に対して、「語用論」は言語使用場面での意味を扱い、我々は言語を使ってどのように意志疎通を図るかに関するを研究をする分野である。近年この研究分野の領域は多岐にまたがり、単に文法事象の文脈的説明や発話意図の研究にとどまらず、言語使用における認知的、社会的、文化的側面を取り入れた学際的なものに発展している。今回は、従来取り扱われてきた研究領域の解説が中心となるが、最近の分野についても部分的に紹介する。	<b>【講義計画】</b>  (1) 語用論の領域について (2) 言語使用と文脈 (3) 文法研究と語用論 (4) 情報構造 (5) 直示性 (6) 発話行為  (7) 発話解釈の原理 (8) 認知的語用論 (9) 対人コミュニケーションにおける語用論 (10) 社会／文化研究における語用論 (11) まとめ			
<b>【成績評価の方法】</b>  出席、クイズ、課題、試験を総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b>  1. ジェニー トーマス（著）田中典子他（訳）「語用論入門」研究社、1998年 (Jenny Thomas, 1995 "Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics". London: Longman) 2. ヤコブ メイ（著）沢田治美、高司正夫（訳）「言葉は世界とどうかかわるか：語用論入門」ひつじ書房、1996年 (Jacob L. Mey, 1993 "Pragmatics: An Introduction" Oxford: Blackwell) 3. レビンソン（著）安井稔、奥田夏子（訳）、研究社「英語語用論」1990年 (Stephen C. Levinson, 1983 "Pragmatics" Cambridge: Cambridge University Press)  4. 橋内武 「デイスコース」くろしお出版、1999 5. その他授業中に紹介する。			
<b>【教科書】</b>  1. 高原脩、林宅男、林礼子（共著）「プラグマティクスの展開」、勁草書房 (近刊) 2. プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学 I 身体感と自我 (旧英米文学特講IV)		後 期	2 単位	佐々木 英 哲
<b>[講義概要・学習目標]</b> 欧米の十九世紀と言えば、厳格に峻別されたジェンダーに基づくヴィクトリア朝的モラルに呪縛された時代であり、「近代」諸「科学」の華々しい幕開けとなった時代である。肉体及び(多少乱暴な言い方をすれば、肉体そのものと同レベルに並置された)「女性」性、非「白人」的特質、(移民)「労働者」階級的生活行動様式などを科学の力で管理、馴致し、理性をその極限まで推し進めていこうとした時代である。ヴィクトリア朝的イデオロギーのパワーは、Hawthorne でみれば、かつての純粋青年で今では妻 Faith を頼として抱み続ける Brown ("Young Goodman Brown") や、科学の力で妻から女性「性」そのものを除去しようと躍起になる Aymer ("The Birthmark") のうちに測定できるだろう。それはまた、Melville でみれば、Billy の女性的實質に病的な過剰反応を示す Claagart や Vere 艦長に確信できよう (Billy Budd, Sailor)。そんな時代にあつて、家族のうちに精神病、肺病、性病等、当時(そして今でも)世間から偏見の視線を注がれるような病に侵された者が多かったこともあつて、Whitman は健康な身体に対して並々ならぬ関心を寄せることになった。彼は自己の魂と肉体を包み隠すところなく高らかに歌いあげて賛美した。「男女の上に立つものでも、離れて立つものでもない」自己を「マンハッタンの息子」と称して、積極的に民衆のなかに入っていくこととする彼の姿には、アメリカ民主主義を自分なりに実装したい、という彼の政治的スタンスすら窺い知ることができる。皮膚から発する身体感、身体と一体化しているという意識、いたずらに歪曲されることなく描写される肉体は、おのずから自己としての意識に変容をもたらすことになる。ところで、ジェンダーを批判の道具に載せ、いったんジェンダーと切り放した形で身体を捉え直そうとする動きがおこりつつあるのが今日の状況である。そこで、ジェンダーに強く切り込んでみせるフェミニズムの成果を射程範囲に取めつつ、Whitman における身体感と自己の関係を探っていくことを、差し当たっての本講義の目標としたい。取り上げる作品は言わずと知れた詩集、Leaves of Grass (『草の葉』)である。	<b>[講義計画]</b> 読みの便宜を図るために、日本人研究者による注釈のついたテキストを使用する。テキストに収録されていない詩については、授業時にプリントを配布する。Leaves of Grass (『草の葉』)のどこを読むかであるが、ある意味で諸念、遠慮に達したかのような感をも受ける老境期の詩作はさて置き、血気盛んな頃の Whitman が異性愛を謳歌し、同性愛をも厭することなく賛美して書き上げた 'Songs of Myself', 'Children of Adam', 'Calamus' を中心に取り上げたい。進むペースは受講者の様子を見ながら判断する。何はともあれ英語英米文学科に身を置く以上、英語で書かれた Whitman の詩を丁寧に拾いあげていくことから私たちは作業を起していくことになる。全員が丹念に予習してくることを大前提としているので、受講者はその心づもりでいてほしい。			
<b>[成績評価の方法]</b> 現段階では筆記試験を予定しているが、場合によってはレポートに変更の可能性もある。出席を重視し、授業への積極的参加度を評価する。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> Selected Poems of Walt Whitman. 注釈 田中礼, 研究社。 及び、授業時に配布するプリント。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学 II (結婚の条件) (旧英米文学特講IV)		前 期	2 単位	中 村 祥 子
<b>[講義概要・学習目標]</b> 結婚の条件とはすなわち、男女間の愛情の有無にかかわる問題である。簡単に言えば、愛情がありさえすれば、それで二人の結婚の条件は整うことになる。しかし現実には、この原理は、十七世紀以降の社会でさえもなかなか貫徹され難かった。 イギリス文学では、この問題を取りあげた傑作がたくさん書かれた。たとえば Romeo and Juliet は、二人の愛情に、両家の敵対という別の条件が介入してきたために悲劇に陥る一例だと言える。また経済的な諸問題が、結婚の優先的な条件になる場合を扱った作品も数多い。 この講義では、本来二人の間の愛情の問題にすぎないはずの結婚の条件が、様々な変質してしまう側面に注目し、そうした問題を扱ったイギリス文学作品を幾つか取りあげて論じ、その核心部分を原文で読んでみる。	<b>[講義計画]</b> 左記の [講義概要・学習目標] に応じた諸作品をもとに、一作品につき3~5回位の速度で進める。英文については適宜、授業中に配布する。  そして、これこれの主人公たちがこの問題でどのような経験をし、どのような解決をしようとしていくかを具体的に見ていく。さらにその背景にある社会的諸問題を、作者がどのようにとらえているかを分析していく。			
<b>[成績評価の方法]</b> 定期試験の成績と、平常点の総合評価による。平常点には出席点、小テストの成績なども加味する。	<b>[参考文献]</b> 授業中に指示する。なお、番訳でよいから出来る限りたくさん、18・19・20世紀のイギリス小説を読んでおくことが望ましい。			
<b>[教科書]</b> 授業中に英文コピーを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅲ（ 生きる ） (旧英米文学特講Ⅳ)		前 期	2 単位	谷 本 泰 三
<b>【講義概要・学習目標】</b> 日ごろ日常生活をなんとなく送っている私たちに、「生きるって、どういうことなんだ」とい問いかけて迫ってくる。そんな作品を2編選んで検討する。先短い命しか残っていない老人が、老人としての知恵と分別を十分に備えながら、同時に若者顔負けの夢、永遠の生命を夢見て生きまくる物語、Hemingway の <i>The Old Man and the Sea</i> を講義する。それと、重度の傷痍をもつ女性が、自分が生きていることの意義を見出す糸口となるであろう悪魔体験を描いた F. O'Connor の "Good Country People" を読む。原作品を確実に読むことは、思いもよらなかった問題と出会う切っかけとなるだろう。受講生それぞれが作品のなかから素晴らしい問題を見出し、素晴らしい解答を構築して欲しい。	<b>【講義計画】</b>  1-3 E. Hemingway <i>The Old Man and the Sea</i> 講義 4-10 F. O'Connor テキストの検討 11 受講生が提出する問題の検討 12 予備			
<b>【成績評価の方法】</b> 平素の努力を最重点とする。他に小論文または試験。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> ヘミングウェイ『老人と海』新潮文庫 Flannery O'Connor "Good Country People" 南雲堂 (南雲堂版では本の表題は "A Good Man Is Hard to Find" となっている。 クラスで使う作品はこのなかに取められている。)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅳ（ 孤独と愛 ） (旧英米文学特講Ⅳ)		後 期	2 単位	谷 本 泰 三
<b>【講義概要・学習目標】</b> 喪失、孤独、そして愛。これら古典的な問題をアメリカの現代作家はどのようにして作品化しているのか。現代作家の二つの短編作品を読みながら、このことを検証してみる。 ふとしたことから亀裂が露呈し孤独を味わう夫婦に愛の修復は可能なのか。Tobias Wolf が作品 "Say Yes" で問いかける。 多くの受賞作品を発表してきた作家が、女性であり、黒人であるために味わう孤独感を描いた Alice Walker の "Fame" は、彼女の孤独感は癒されるのかと問いかける。 この二つの短編小説を時間をかけてゆっくり読む。思いもよらなかった問題と出会う欲しい。受講生それぞれが作品のなかから素晴らしい問題を見出し、素晴らしい解答を構築して欲しい。	<b>【講義計画】</b>  1-5 Tobias Wolf "Say Yes" テキストの検討 6-11 Alice Walker "Fame" テキストの検討 12 受講生が提出する問題の検討。 13 まとめと反省			
<b>【成績評価の方法】</b> 平素の努力を最重点とする。他に小論文または試験。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 教材として使用するものは後期開講時に指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学V (真実の諸相) (旧英米文学特講IV)		前 期	2 単位	小 野 良 子
<b>【講義概要・学習目標】</b>  言葉の応酬で〈真実〉を追求する時、はたして 私たちは〈ひとつの真実〉にたどりつけるのだろうか？そもそも〈真実〉とは絶対的な、唯一の事実でありうるのか？そして、過去の事実を振り返る時私たちは必ず、「本当に起こったこと」を語るのだろうか？ 本講義では、英米の現代劇を取り上げて、人間関係の局面に応じて変容する〈真実〉の相について考える。	<b>【講義計画】</b>  作品検討と映像分析: ハロルド・ピンターの『コレクション』と『昔の日々』、エドワード・オールビーの『ヴァージニア・ウルフなんかこわくない』を読んで、検討する。オールビーの作品は映画も合わせて鑑賞し、言葉の応酬を文字で追うだけではなく、人物の表情や動き (non-verbal communication の側面) にも注目する。			
<b>【成績評価の方法】</b>  1. 小エッセイ            講義終了毎に提出 2. レポート              1点提出 (4000字×15～20枚)	<b>【参考文献】</b>  講義中に知らせる			
<b>【教科書】</b>  Harold Pinter, <u>The Collection</u> <u>Old Times</u> Edward Albee, <u>Who's Afraid of Virginia Woolf?</u> (南冥堂)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学VI (孤独と米演劇) (旧英米文学特講IV)		前 期	2 単位	石 塚 浩 司
<b>【講義概要・学習目標】</b>  アメリカ文学において、孤独はさまざまに描かれてきたが、とりわけ現代において、それは個人と社会との関係と切り離せない状況として描き出されていることが多い。授業では、劇作家、Edward Albee が初期の1幕ものに表現したアメリカ現代人の孤独を理解することによって、われわれのあり方を考えることにしたい。具体的には、テキストを丁寧に読み、作品解釈の方法を身につけるとともに、英語能力の向上をはかることをも学習目標とする。したがって、毎回の予習は欠かせない。授業は受講学生の数に応じて、演習形式と講読形式を折衷して行う。	<b>【講義計画】</b>  毎回、テキストを読み進めることによって、Edward Albee によって表現された現代人の孤独を、アメリカ資本主義社会との関わりで理解する。			
<b>【成績評価の方法】</b>  出席状況、発表内容、テスト結果を総合して評価する。	<b>【参考文献】</b>  『講座・英米文学史VI—劇3』 (大修館書店) 『モダン・アメリカン・ドラマ』 (研究社)			
<b>【教科書】</b>  <i>The Zoo Story</i> <i>The American Dream</i> (プリントを配布する)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語史 (旧英語学特講Ⅰ－英語史)		通 期	4 単位	野 原 康 弘
<b>【講義概要・学習目標】</b> イギリスを旅してまわると、いろいろところで、いろいろな民族が残したのを見ることができる。南西部のソーズルベリー平原には、ケルト民族（あるいは、それ以前の民族）の遺産「ストーンヘンジ」が今でも謎として残されている。スコットランドに近い北部を横断している「ハドリアヌスの城壁」は、約2千年前のローマ人の支配がいかに強かったかを見せつけている。「サクソン海岸」と呼ばれている頭部の海岸は、ゲルマン民族の侵略と征服を今に伝えている。「リンディスファーンの破壊された修道院の遺跡」はバイキングの侵略の激しさを物語っている。さらに辞書の上では、おびたしい数の「フランシス語からの借用」が1066年以後、約300年以上のノルマン人の征服と支配を私たちに知らしめている。 このような外的な歴史の変化とともに、英語という言語がもたらされ、それ自体も大きく変化してきたのである。したがって、この講義では「英語」という言語が外的な歴史と関連して、「英語」自体の内的な歴史をどのように展開してきたかを学ぶことになる。	<b>【講義計画】</b> 前期 1. 英語の祖先語 2. ケルト人の遺産 3. ローマ人による征服 4. ゲルマン人による征服 英語の始まり 5. 古期英語 6. バイキングによる侵略 7. ノルマン人による征服 後期 1. 中期英語後期 チョーサーの英語 2. 近代英語の始まり 英国のルネッサンス シェイクスピアの英語 3. 近代英語後期 4. 世界の英語 5. アメリカ英語			
<b>【成績評価の方法】</b> 前期と後期の試験、レポート、出席	<b>【参考文献】</b> 授業中にそれぞれ指示する。			
<b>【教科書】</b> 『英語史』 松浪 有(編) 大修館書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語文法論 (旧英語学特講Ⅱ－文法論)		通 期	4 単位	三 宅 亨
<b>【講義概要・学習目標】</b> この講義では、英文を正確に理解するための実践的な英文法の知識を身につけることを目指す。 英語に限らず、どの外国語でも正しく使いこなすには、単に語彙力（単語や慣用句に関する知識）だけでは不十分であり、文法力（文の構造に関する知識）が求められる。語彙については、個人の興味や知識と深い係わりがあり、各自が時間をかけて経験を重ね知識を身につけるなかで身につけることが大切であるが、文法知識はある時期に集中して習得することが可能であるし、そうすることが望ましい。 本講義では、現代英語の文法体系のなかから重要な規則について学び、あわせて自然な日本語との対比（翻訳）を試みる。 英語教育・翻訳・通訳などに興味のある学生の受講を歓迎するが、「英語の構造」を履修済みであることが望ましい。	<b>【講義計画】</b> 1. 文の要素 2. 代名詞 3. 現在時制 4. 過去時制 5. 未来表現 6. 助動詞 7. 態 8. 関係詞 9. 句と節 10. 時制の一致と話法 11. 仮定法			
<b>【成績評価の方法】</b> 遅刻や欠席の多い学生には単位を与えない。前期・後期の定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意と小テスト・レポートなどに基づき、総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b> Quirk et al., <i>A Comprehensive Grammar of the English Language</i> . Longman, 1985 その他、テーマごとに指示する。			
<b>【教科書】</b> 神戸修『翻訳のための最新英文法と語法』近代文藝社、1994年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語音声学 (旧英語学特講Ⅲ－音声学)		通 期	4 単位	ケビン グレグ Kevin R. Gregg
<b>[講義概要・学習目標]</b> 本授業はつぎの二つの目的をもっている： (1) 音声学と音韻論という、言語学の下位分野の基礎的な概念や原理を学生諸君に学んでもらうこと (2) その概念や原理を英語の音韻体系に適用してもらうこと (1) については、例えばつぎの問題を取り上げる： ・人間言語における音（オン）は、どのようにして調音するのか ・ある個別言語では、二つの音が「同じ」か「違う」か、どう決めるのか ・人間言語の可能な音をどう分類すべきか ・発話する際、どのような規則に従っているのか (2) については、つぎのような、より具体的問題を勉強する： ・英語の音；その記述、その調音のしかた ・英語の音韻体系の主な規則 ・英語におけるストレス（強勢）とイントネーション	<b>[講義計画]</b>			
<b>[成績評価の方法]</b> 定期試験も複数の小テストも行なう。出席する義務は当然ないが、テキストがないからこそ、出席して念入りにノートをとらなければ、単位がとれる可能性は非常に低くなる。そして授業中私語をしたり眠ったりする学生は、早速除籍される。	<b>[参考文献]</b>  松本裕治ら『言語の科学入門』（『言語の科学、1』）岩波書店、1997  前川喜久雄ら『音声』（『言語の科学、2』）岩波書店、1999			
<b>[教科書]</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語習得論 (旧英語学特講Ⅳ－英語教授法)		通 期	4 単位	ケビン グレグ Kevin R. Gregg
<b>[講義概要・学習目標]</b> 言語学という科学は、特につぎの三つの質問に答えようとする： 1) 言語の知識は、どのようなものなのか。 2) その知識は、どのように獲得されるのか。 3) その知識は、どのように使用されるのか。 本授業は、その(2)に関するものである。われわれは、自分の母語に関して非常に複雑かつ微妙な知識をもっているが、その知識を、どうやって得たかを、説明しなければならない問題である。本授業では、子どもの母語（特に英語や日本語）の獲得過程のデータを考察しながら、提案されている諸説を考える。 つぎの点に注意してほしい： イ) 獲得を説明するために、何が獲得されるか（上の(1)）を十分把握しておくなければならない。従って、学生諸君が文法論や英語の文法をすでに（ある程度）理解しているという前提に基づいて授業を行なう。 ロ) 本授業はあくまでも母語の獲得に関するものであり、外国語の学習に関するものではない。なおさら教育法とは、縁が全くない。	<b>[講義計画]</b>			
<b>[成績評価の方法]</b> 定期試験も小テストも行なう。なお、テキストを読むだけで済むと思っは大間違いで、出席して念入りにノートをとらなければならない。そして授業中私語をしたり眠ったりするような、マナーを知らない学生は、早速除籍される。	<b>[参考文献]</b>  松本裕治ら『言語の科学入門』（『言語の科学、1』）岩波書店、1997  大津由紀雄ら『言語の獲得と喪失』（『言語の科学、10』）岩波書店、1999			
<b>[教科書]</b>  Steven Pinker（椋田直子、訳者）言語を生みだす本能（上下）NHK Books （740,741）1997				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語パブリック・スピーキング		通 期	4 単位	萬 戸 克 憲
<b>[講義概要・学習目標]</b> 問題点に対し①論理的な思考をし、②説得したり、③その場で反駁したりが、英語のできる技能を身につける。 準備、発表など毎時間積極的な取り組みが必要。かなりきつい授業であるので、覚悟して受講してほしい。 この講義を通じて、英語で自由に自分の意見を述べたり、相手に反論できるようになることを期待している。 なお、下記テキストを購入し、次の課題について最初の時間に essay (B5版で3~5枚)を書いて提出することで受講を認める。 ①debate は discussion とはどのように違うか ②debate を通じてどのような力を身につけることができるか ③この授業にたいする私の期待	<b>[講義計画]</b> 1 前・後期を通じて、毎時2分間の英語でのスピーチを課す。 2 前期: debateについて基本から学習し、さまざまな問題について自分なりの意見が英語で表現できるようにする。 3 後期: debate (真剣勝負)を中心に授業を進める。			
<b>[成績評価の方法]</b> 授業への参加度 および speech 3 回以上の欠席は単位を認めない	<b>[参考文献]</b> D.W.Klopf, et al. <i>The Bases of Debate</i> Sanshusha			
<b>[教科書]</b> Y.Matsumura, et al. <i>Enjoy Debating</i> EICHOSHA				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語ディスカッション		通 期	4 単位	ジェフリー ヘリック Jeffrey Herrick
<b>[講義概要・学習目標]</b> Syllabus 1. THE STAR 2. STRANGE ANIMAL 3. HANNAH 4. VERBAL TRANSCRIPTION - 6 a.m. 5. THE DEBATE 6. IMPRENT THINGS 7. SECRETS 8. DAZZLE 9. MISUNDERSTOOD 10. SHELL SONGS 11. REPORT ON THE SHAWM INDUSTRIES	<b>[講義計画]</b> Discussion Themes: Plan. (detail). 1 < a) ESCAPE FROM ROUTINE, LONELINESS b) THE WORLD OF THE IMAGINATION 2 < a) TOLERANCE OF OTHERS; THE MAGIC OF MUSIC b) FAMILY RELATIONSHIPS 3 < a) YOUTHFUL ANTICIPATION, SOCIAL CONVENTIONS b) UNEXPECTED TURNS IN LOVE, REGRET 4 < a) REALITY AND IMAGINATION, ESCAPISM b) THE SEARCH FOR HAPPINESS 5 < a) EVERYDAY CONFLICTS, CRISIS SITUATIONS b) BEHAVIOR IN EMERGENCIES 6 < a) CREDULITY VERSUS CIVILIZED BEHAVIOR b) REALITY AND DREAMS 7 < a) PARENTS AND CHILDREN b) WHAT IS IMPORTANT IN LIFE? 8 < a) A CHILD'S VIEW OF THE ADULT WORLD b) FAMILY BREAKDOWNS, THE NEED FOR LOVE 9 < a) INTROVERTS AND EXTROVERTS b) DIFFERENT WAYS OF SOLVING PROBLEMS 10 < a) ANIMALS AND HUMANS b) THE IMPORTANCE OF COMMUNICATION 11 < a) RICH AND POOR b) INTUITION VS. INTELLECT			
<b>[成績評価の方法]</b> Evaluation: CLASS PARTICIPATION AND REPORTS	<b>[参考文献]</b> REFERENCES			
<b>[教科書]</b> Texts SHORT STORIES FOR CREATIVE LANGUAGE CLASSROOMS JOANNE COLLIE AND STEPHEN SLATER CAMBRIDGE UNIV. PRESS				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英・日語翻訳法 (旧応用英語特講Ⅱ－英語翻訳法)		通 期	4 単位	柳 父 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>翻訳は英文和訳とは違う。どういう風に違うかという、翻訳はまず日本語でなければならない。英文和訳は、英語の勉強の必要上、教室内でつくられた特殊な日本語である。こういうことを、最初に講義する。 それからあと、教科書の英文を、毎時間1ページ半くらい翻訳してきて提出してもらう。これは毎時間の宿題である。 そして次の時間に、何人かの人に、採点した翻訳を返却し、自分の欠点などを知らせてもらう。人数の関係で、何回かに分けて採点結果を返却し、必ず全員が何回かは返却されるようにする。 目標は、翻訳することで、英文が精密に読み込めるようになり、また、日本語もしっかりと書けるようになること。 毎時間自分の翻訳を提出しなければならないので、きっちり出席しないと合格できない。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>まず教科書を中心に翻訳の勉強をする。毎時間翻訳する分は少ないが、かなりむづかしい文章を選んである。 それから、いろいろなタイプの文の翻訳練習をするために、私が選んできた英文をコピーしてあらかじめ渡し、それを翻訳してもらう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎時間提出してもらう翻訳を採点し、その総合で評価する。 期末試験はとくにおこなわない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>私じしんの翻訳についての著書や論文があるが、それは随時授業の中で紹介していく予定である。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>Stoughton Holborn 岡地 嶺註解 "The Need for Art in Life" (芸術と人間) 成美堂 1996 1236円</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英・日語通訳法 (旧応用英語特講Ⅰ－英語表現法)		通 期	4 単位	遠 山 淳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>正直に言えば、通訳者になるのであれば、TOEFL に換算して 600点ぐらいいはないと、他人のための通訳などとても望めない。通訳をするということは、他人の言語生活を、文化を超えて共有するということである。 適性の問題もある。日本語力、英語力、専門知識、教養、異文化・国際行動の常識、通曉性の高い発音、これらすべてが学習目標となるし、加えて通訳技法の習得である。これは英語学習のコースではない。 このコースは、通訳法の入門コースである。しかし、語学力は高度なレベルでないと訓練もできない。日英語新聞の社説レベルを要求する。 技術的に少人数クラスでないとクラス運営ができない。LL教室を使用。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：「通訳法」と「通訳者」</li> <li>2. アド・ホック通訳（日英）と逐次通訳（英日）</li> <li>3. 逐次通訳法とメモ取り訓練（英日）</li> <li>4. 簡単な同時通訳法訓練（英日）</li> <li>5. 逐次通訳法を中心とする訓練</li> <li>6. 模擬訓練と実力試験</li> </ol>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末に行う実力試験（performance）で評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。必要に応じてハンドアウトを配付する。学生は、メモ取り用の雑記帳と空テープを、毎回用意すること。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教と英米文学 (旧英米文学特講V-キリスト教と英米文学)		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
<b>【講義概要・学習目標】</b> 神と悪魔、信仰と疑惑、希望と絶望、従順と反逆、このような対極の間でバランスをとろうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証して、キリスト教への理解を深め、優れた文学作品が思想に命を与える様子を見ることにある。作品から喜びや、恐怖、そして感動を体験して欲しい。講義は常に聖書に言及しつつ原作品に密着して行う。指示された作品の原典を予習しておくことが必須となる。講義の詳細なアウトライン(学習ガイド付き)を用意しておくのでそれによって予習するように。	<b>【講義計画】</b> 1 E.E. Cummings "Buffalo Bill's defunct" 死を超えるイエス 2-3 A. Marvell "To his Coy Mistress" 生への空しい欲望 4-6 N. Hawthorne "The Minister's Black Veil" 人は全て罪人? 7-10 S.T. Coleridge <i>The Ancient Mariner</i> 罪と死からの解放 11 W. Wordsworth "We Are Seven" 永遠の命と無垢 12 J. Milton "On His Blindness" 絶望から希望への信仰 J. Milton "On the Late Massacre in Piedmont" 死と再生 13 G. Herbert "Love" 罪を赦すキリスト/聖餐式の意味 14-19 W. Faulkner "That Evening Sun" イエスの再臨 20-22 H. Melville <i>Moby-Dick</i> 不信の男とキリストになれなかった男 23 Christmas carols, English and American 信仰の喜び 24 まとめ			
<b>【成績評価の方法】</b> 前期 小論文 後期 期末試験 年間を通じて平素の努力点	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 聖書 谷本泰三(著)「学習ガイド・講義アウトライン」 なお、Hawthorne, Coleridge, Faulker のテキストは英潮社、研究社出版、英宝社等からのものを、そのつど生協で入手できるよう手配する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学概論		通 期	4 単位	和 栗 了
<b>【講義概要・学習目標】</b> 文学とは何かという問題に解答を出すために、文学作品をいかに読むべきかを、具体的に講義する。作者が自ら信ずる真理を読者に伝えるために最も効果的な表現手段を選択したとすれば、読者はその表現を読む技術を必要とする。作者が選択した最良の表現を、詳細に、正確に、そして想像力豊かに読む方法を受講生に伝える。 次に、文学作品を読む技術を身に付けた読者に要求されるものは、読者自身である。読者としての我々はどのような人間なのかを見たい。これが最終目標である。	<b>【講義計画】</b> 第1回目の授業で指示する。			
<b>【成績評価の方法】</b> 年2回のレポートによる。 出席も重視する。	<b>【参考文献】</b> 第1回目の授業で指示する。			
<b>【教科書】</b> 第1回目の授業で指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文学		通 期	4 単位	赤 瀬 雅 子
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>  近年、わが国では比較文学研究がますます盛んになってきた。比較文学は今世紀のはじめ、フランスにおいて始まった学問である。そして1960年代にひとつの頂点に達したものである。  この学問は文学研究の一方法であり、その意味では、例えばフランス文学研究等と同質のものであった。加えて同時代の外国文学の深い影響を考察するものであることが、厳守され、それに反する研究は比較文学とは見なされなかった。また古典の比較文学的研究も歓迎されなかった。  このような多くの制約から自由になろうとして起こったのがアメリカを中心とした対比的研究方法である。この方法から派生した比較文学と平行して比較文化を考察しようとする方法は意外な成果を生み、わが国においても比較文学・比較文化の研究が主流となってきた。  基本のアカデミックな比較文学の方法を紹介しながら、新しい対比研究の方法をも具体的に考察する。</p>	<p><b>[講義計画]</b>  現在、わが国の多くの大学で比較文学の講義を担当している多くの研究者が大学生のために書き下ろした数編ないし十数編の論文に触れながら、比較文学・比較文化を学ぶ楽しさを引き出して行く。コスモポリタンなものの考え方をすることの大切さを常に意識したい。</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b>  前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。</p>	<p><b>[参考文献]</b>  富田仁・赤瀬雅子著『明治のフランス文学』（駿河台出版社）</p>			
<p><b>[教科書]</b>  松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ギリシア語		通 期	4 単位	山 川 偉 也
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>  西欧文化の根源はギリシアにある。西欧文化をある程度以上に理解しようと思うなら、ギリシア文化を深く知らなければならない。そして、ギリシア文化を確実に知るには、その言語を学ぶのがいちばんである。  この授業は、ギリシア語の学習をしながらギリシアの文化を学びたい人のために開講される。語学一辺倒ではない。たまにはビデオを見たり、古典の作品を解題したりしながら、楽しい授業にしたいと思っている。</p>	<p><b>[講義計画]</b>  講義概要・学習目標の項を参照</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b>  毎回授業への参加態度と試験の結果を見て、総合的に評価する。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p>			
<p><b>[教科書]</b>  田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』岩波書店</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ラテン語		通 期	4 単位	ゴンザレス ダ リ オ GonzalesDario
<b>【講義概要・学習目標】</b> 【学習目標】 ラテン語の基礎的な知識の習得を目指す。 【講義概要】 ヨーロッパの共通語的存在であったラテン語は、二千年余りの歳月により今やフランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語、等に変身しているが、西洋文明や文化の歴史の謎を解くための鍵になる言語である。又、英語の辞書を開けば、多くの語彙が、ラテン語から影響していることを知り、母なる言語の由縁が自然に理解できる 講義は、ラテン語の基礎的な文法の理解と、現代ヨーロッパの諸言語の共通点を知ることによりラテン語の歴史の概要についても触れる。又、ラテン語にできるだけ親しんでもらう為に、視聴覚教材を活用するつもりである。 授業には、ラテン語の小辞典を携帯する。	<b>【講義計画】</b> 〈前期〉1. ラテン語の起源と歴史 2. 発音と読み方 3. 基礎的な文法事項 〈後期〉1. ラテン語からの派生語 スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語 等 2. 身近かなラテン語 音楽と雑誌 3. 簡単な日常会話			
<b>【成績評価の方法】</b> 小テスト、出席日数、レポートの総合評価	<b>【参考文献】</b> 松本悦治 (著)「ラテン語入門」(駿河台出版社)			
<b>【教科書】</b> プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
貿易実務		通 期	4 単位	桜 井 勝 友
<b>【講義概要・学習目標】</b> 産業空洞化による日本の構造的就職難を恨んでも始まらない。積極的打開の道は国際貿易の場の中にしか残されていない。21世紀の主役になる当学の学生諸君はこの実情を認識し、海外で大いに活躍出来る人材になってもらわねばならぬ。扱う商品や取引形態の如何を問わず、貿易実務の基礎知識なしに海外に飛び出すのは、海図なしに航海に乗り出すのに等しい。その基礎知識の習得をこの学習の目標とする。 英語 (特に商業英語) の能力は当然要求される故、その講義の履修または積極的自習をお願いする。	<b>【講義計画】</b> 日本の国際貿易取り引きの現状認識 取引先の開拓、調査、及び選定 取り引き形態の決定 具体的商談開始 (取り決めるべき諸条件) 契約の締結 契約の履行 (「物の移動」及び「金の移動」) 保険の基礎知識 外国為替の基礎知識 クレームその他問題発生とその対処 三国貿易の促進と要求される人材			
<b>【成績評価の方法】</b> 前・後期期末試験成績、出欠状況、受講態度 (積極性)。	<b>【参考文献】</b> 「マンガ貿易入門」 宮下 忠雄著 (サンマーク出版) 「貿易実務」グローバル・ビジネス時代の貿易取引 大塚 朝夫監修 (成美堂) ネットブック「貿易実務」来住 哲二 編 (有斐閣ブックス) [新] 実用英語ハンドブック 加藤 正 主幹 (大修館書店)			
<b>【教科書】</b> 「貿易実務がわかる本」 宮下 忠雄 著 (PHP)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マスコミの英語		通 期	4 単位	大 橋 襄
<p><b>【講義概要・学習目標】</b></p> <p>マスコミの英語は、世の中の激しい動きを即座に伝えていくものだけに、生き生きと躍動しています。独特な言い回しや表現を用い、時には文法や構文のルールも逸脱します。この授業では、最新の英字新聞、雑誌、放送などを教材として、ホットなニュースを読んだり、聞いたりしながら、興味を持ちつつ学習を進めていきたいと思えます。もちろん基本的なことも、教科書によって学んでいきます。しかし、忘れてならないのは、英語の知識と同時に、ニュースで扱われるいろいろな問題の本質や背景などについての知識、そして豊富なボキャブラリー（英語とともに日本語も）です。それらを身につけて「マスコミの英語」にどんどん接していけば、次第に英字新聞・雑誌・放送などへの拒絶感がなくなり、親しみを感じるようになるでしょう。それがこの授業の目的です。</p>	<p><b>【講義計画】</b></p> <p>（前期） 日本や海外の英字新聞、雑誌、放送、通信などの概説からはじめ、その内容（ニュース、論説、解説など）、記事の構成などを学び、またそれらに用いられている特有の語法、文体、表現などを学習します。そのあと、教科書と並行しつつ、最新の新聞、雑誌、放送など、“生の”教材に触れながら授業を進めていきます。また、問題の理解を助け、深めるため、時事知識も同時に学びます。</p> <p>（後期） 前期と同様、随時、最新の新聞などを教材にしつつ、授業を続けます。</p>			
<p><b>【成績評価の方法】</b></p> <p>学年末の試験を最終評価とします。 また、授業時などにおける随時のテスト、レポートのほか、出席状況や学習態度も評価に加えます。</p>	<p><b>【参考文献】</b></p>			
<p><b>【教科書】</b></p> <p>未定</p>				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究 (日本文化) (旧 日本文化研究Ⅰ)		通 期	4 単位	佐 賀 朝
[講義概要・学習目標] 「江戸」の社会=文化構造」と題し、日本の民衆の文化を多彩な形で創造した近世(江戸時代)の巨大都市江戸の社会をのぞく。 文化の表層をなぞるのではなく、文化をつくり出す基礎となった社会そのものの構造にメスを入れる形で「江戸」の文化創造力の源泉に迫りたい。 まず前半では歌麿・写楽・北斎など著名な絵師の作品を手がかりに、浮世絵の画題となった江戸の多様な社会=空間と文化現象について論じていく。具体的には、遊廊、芝居地、町火消、若者仲間、両国などを取り上げる。 また後半では、歌舞伎の作品である「髪結新三」を取り上げ、そのストーリーを読み解きながら、その背後にある「江戸」の社会=文化構造に迫っていききたい。 全体を通じて、歴史的方法に基づいた文化研究の新しい可能性を探っていききたい。	[講義計画] (前期) 浮世絵の文化=社会構造  写楽/歌麿/北斎/広重/春信/国芳などの作品に関わって、両国/吉原/町火消と若者仲間/講中/芝居地などを取り上げる。  (後期) 「髪結新三」の作品世界と江戸の社会  「髪結新三」の作品世界/白子屋(材木屋と仲間)/髪結新三(髪結の経営と仲間)/弥太五郎源七(親分・通り者の世界)/家守長兵衛(場末の家守)などを取り上げる。			
[成績評価の方法] 出席、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。	[参考文献] 浅野秀剛・吉田伸之編『浮世絵を読む』1～6(朝日新聞社、1997～98年) 吉田伸之編『「髪結新三」の歴史世界』(朝日新聞社、1994年)			
[教科書] 必要な資料は授業のなかで随時、配付する。	以上のほか、授業のなかで随時、提示する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究 (韓国・朝鮮文化) (旧 韓国・朝鮮文化研究Ⅱ)		通 期	4 単位	青 野 正 明
[講義概要・学習目標] 近年、日本と韓国との交流がさまざまな分野で盛んになってきた。そのため、現代韓国に関心をもつ人たちが急激に増えている。 そのような状況を踏まえて、この授業では韓国・朝鮮文化一般を概説していく。具体的には、歴史・地理・宗教・言語・社会制度などの諸項目について、視覚資料の多い教科書を用いながら学ぶことになる。 知識として知ることが必要だが、異文化の特質を見だし理解するための視座や学問的技術も併せて修得することを目標したい。	[講義計画] 歴史 地理 宗教 言語 社会制度 風俗 集落と住居 衣服 料理と酒 美術 音楽 日韓比較文化 北朝鮮事情 また、在日韓国・朝鮮人、日韓の歴史教科書問題、韓国での日本の大衆文化「開放」についても講義する予定である。			
[成績評価の方法] 出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。	[参考文献] 必要に応じて授業中に紹介する。また、プリント類も配布する。			
[教科書] 金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社、1993年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（中国文化） （旧中国文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	フィリップ ビリングズリー Philip Billingsley
<b>〔講義概要・学習目標〕</b> 中国一 遠いと思えば上海までわずか 2 時間、近いと思えばビザなしでは行けない。行けば理解できないことばかりで、心を揺さぶられる。第一印象で反感を覚えずとも、時間が立つうち愛着が深まる。「共産主義国家」かと思えば、「資本主義国家」日本に負けず劣らずみんな金儲けに必死。60 年代に国家主席を引き倒すことで政治の舞臺上で活躍していた若者はいま、昼間は株の売買をし、夜はディスコで踊りまくる。「革命運動輸出」で恐れられていた中国共産党はいま、「愛国的カラオケ・ソング」を強制する。謎の上にはまたなぞが重なる。だからこそ放っておけない国なのだ。 講義では、堅苦しい教壇からのお説教スタイルをなるべく避けるつもり。その代わり映画、音楽、テレビ番組などをフルに活用し、言葉からの社会と文化にも触れながらいまの中国の複雑な現実を理解してもらえよう努める。使用する言語は主に日本語だが、ときには母語である英語を披露することもありうる。 尚、「講義」とはいえ、受講生の積極的な参加（講義中の質問タイム、定期的なレポートや小テスト、そして「もちろん」出席）が要求されるからそのつもりで受講して下さい。 目標は主に二つ。一つは 3 年次以後の専門演習に進むための基礎知識と理解を与えること。もう一つはそのような理解を身につけて、「中国へ行ってみよう」という気持ちになってもらうこと。	<b>〔講義計画〕</b> 未定			
<b>〔成績評価の方法〕</b> レポート、小テスト、及び出席率	<b>〔参考文献〕</b> 授業中に配布する			
<b>〔教科書〕</b> なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（東南アジア文化） （旧東南アジア文化研究Ⅰ）		後期集中	4 単位	深 見 純 生
<b>〔講義概要・学習目標〕</b> この講義の目標は東南アジア地域研究のための基礎的な素養を身につけてもらうことである。同時に、東南アジアに限らず<地域>というものを捉える視点と<地域研究>というものについても話したい。 <地域研究>には<現地体験>つまり現地社会に入って人々の暮らしと文化を観察することが必要である。教室では不可能だが、せめてビデオでこれをやってみよう。ただしビデオは誰かが<編集したもの>であることに注意しなければならない。地域研究にはまた<地域特性>つまりその地域の特徴とその背景の把握が大事だが、東南アジアではこれがけっこう難しい。多様性、生態適応型、地域統合志向の出現といったことから出発しよう。 なお広く東南アジア全域を対象とするが、細かい点では私の専門との関係で、地域的にはインドネシア、学問的には歴史学に傾きがちである。	<b>〔講義計画〕</b> 1. 世界のなかの東南アジア アジアとヨーロッパ／世界のなかの東南アジア 2. 東南アジアの多様性の現状と背景 地理／10 国の現況／言語・民族／宗教／歴史 3. 東南アジアという地域の成立論理 国際政治の論理／文化的視点 4. 東南アジアを括る論理を求めて 生態学（島の熱帯）／社会学（小人口社会）／ 文化学（基層文化と外来文化）／政治学（権力の強さと弱さ）			
<b>〔成績評価の方法〕</b> 時々的小レポートと期末試験の成績を総合する。	<b>〔参考文献〕</b> 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』 弘文堂 1997 (桃図R292.3) 綾部恒雄・石井米雄編『もっと知りたいインドネシア』弘文堂 1995 (桃図ST292.4) 上智大学アジア文化研究所編『入門東南アジア研究』めこん 1992 (桃図A223) 土屋健治・加藤剛・深見純生編『インドネシアの事典』同朋舎 1991 (桃図R292.4) 小池誠『インドネシア 島々に織り込まれた歴史と文化』三修社 1998			
<b>〔教科書〕</b>				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（西南アジア文化） (旧西南アジア文化研究)		通 期	4 単位	井 本 英 一
<b>【講義概要・学習目標】</b> ユダヤ教徒による『旧約聖書』の解釈と解説について。それは、キリスト教徒も含めた非ユダヤ教の旧約解釈とは異なる。ここでは、注解書ミドラシュに伝承された資料をもとに、本来の旧約を解説する。 ユダヤ教徒による旧約の伝説の解説は、アメリカのユダヤ文学の理解にも資するところが大である。ユダヤ教の伝承は、西南アジア研究、キリスト教研究、欧米思想史研究にとって必要である。		<b>【講義計画】</b> 天地創造、エデンの園、大洪水、バベルの塔、アブラハム・イサク・雅各、セコフ・ヒエサウ、ラケルとレア、エジプトのヨセフ、捨て子モーセ、エジプト脱出、黄金の牛、幕屋と神殿、サウルとダビデ、ソロモン神殿、エリヤとメシア、エステルなど順に述べて講義する。		
<b>【成績評価の方法】</b> 達成度により評価する。		<b>【参考文献】</b>		
<b>【教科書】</b> デイビッド・ゴールドスタイン『ユダヤの神話伝説』青土社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（アメリカ文化） (旧アメリカ文化研究Ⅰ)		通 期	4 単位	大 井 映 史
<b>【講義概要・学習目標】</b> ルネサンスの人文主義と宗教改革思想の伝播は中世キリスト教世界に抑圧されて来た人々に新しい自由と新大陸への憧れを抱かせることになる。血縁地縁を断つ覚悟を決めれば、アメリカは新しい生を実現し得る最後の希望となったのである。それが理想郷の建設であれ一攫千金の野望であれ、あるいは単なる逃避行であれ、新大陸の未開の荒野に人々は夢を見た。それは、民族主義のしがらみに拘束されずに、個人の願いを叶えるための自由という夢であった。アメリカの独立宣言はすべての人間に生得の権利として平等に与えられた自由と幸福の追求を約束する。しかし、個人主義的な価値観がどんな国家を成立させ得るだろうか。史上初の民政政体はその発端に矛盾を抱えたことも明らかなのだ。州の自治を尊重すれば中央政府が弱体化する。アメリカ的自由は商業文明に染まって今や世界がアメリカの登録商標に埋め尽くされている。新世紀のアメリカがどこへ行くのかを考えよう。		<b>【講義計画】</b> 前期：歴史的背景とアメリカ合衆国の成立 1 アメリカン・コーヒーと建国の理想： ルネサンスから『市民政府二論』へ 2 グーテンベルク、「マルチン・ルター」と「コロンバス」 3 植民地時代：「ラスト・オブ・モヒカン」 4 ヨーロッパ人の描いた世界：ユートピア思想概観 5 アメリカン・ルネサンスの作家たち 6 南北戦争とマニフェスト・デスティニー 後期：さ迷える多民族国家、アメリカの矛盾 1 上品な伝統：移民と差別 2 二つの世界大戦と女性解放運動 3 赤狩りと大統領暗殺：「JFK」「アンタッチャブル」 4 ヴェトナム戦争と公民権運動 5 アメリカン・フォーク・ソング 6 カウンター・カルチャー：「明日に向かって撃て」と言われても「俺たちに明日はない」 7 新しいアメリカ：映画「スモーク」 8 国境喪失：ユートピア小説が描く近未来		
<b>【成績評価の方法】</b> 年度末締切りの小論文：80% 映画などについての授業中のクイズ：20% 討論への参加：ボーナス・ポイント		<b>【参考文献】</b> 濱田政二郎、『ユートピアとアメリカ文学』、研究社 ランダル・スチュアート、『アメリカ文学とキリスト教』、北星堂書店 ニコラス・レマン、『約束の土地：現代アメリカの希望と挫折』、桐原書店 『アメリカ研究』、大修館書店 *その他、授業に沿って紹介する。		
<b>【教科書】</b> 配布するプリントのほか、各自、研究課題に即した文献その他、資料を収集し、少なくとも一冊を選んで自分の教科書とすること。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（イギリス文化） （旧イギリス文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	伊 藤 高 章
<b>【講義概要・学習目標】</b> 現代の＜英国＞は、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドからなる「連合王国」であり、政治経済的・文化的に多様な要素を内包している。宗教的にも異なる伝統が共存している。王室の君臨する国であると同時に、議会制民主主義の発祥の地でもある。人々の気質は内向的でありながら、帝国主義植民地支配を長期にわたって行った。近代資本主義の誕生の地とも言われる。イギリス文化を単純に語ることは許されない。 本講義では前期において、産業革命を経て世界の最先端を走り、同時に近代社会の問題性を一番先に経験した英国の社会を、歴史をさかのぼって概観しつつ、イギリス文化の諸側面を検討する。 後期は、学生による研究発表を中心とする。	<b>【講義計画】</b> イギリス思想の特徴を把握すると同時に、イギリス近代史の様々な出来事と思想との関連を検証する。特に以下の項目に関心を持つ イギリス宗教改革・重商主義・植民地支配 階級社会・経験論・功利主義・福祉社会 前期後半に、類似する関心を持つ受講者でグループを作り作業負担をした上で、休暇中に自主研究をする。後期にグループごとの研究発表をし、学年末にグループごとの研究報告を提出する。			
<b>【成績評価の方法】</b> 前期に提出のブックレ・ポート 2～3本 夏休みに作成の小論文 後期におけるグループでの研究発表	<b>【参考文献】</b> 随時指示する。			
<b>【教科書】</b> 長島伸一『大英帝国—最盛期イギリスの社会史』 講談社現代新書 937				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（イタリア文化） イタリア人の体験 （旧イタリア文化研究）		通 期	4 単位	米 山 喜 晟
<b>【講義概要・学習目標】</b> 1. イタリア人は、まずローマ史という長い栄光の過去を抱えている。 2. それから中世を経て、ルネサンスという、もう一つの大きな輝かしい記憶を持っている。 3. 最後に近現代のイタリアという、現在の生活の基本条件となるイタリアの歴史がある。  これら三つの時代を概観して、イタリア史の基本的な知識を学生諸君に伝えたいというのが、本講義の欲張った目標である。	<b>【講義計画】</b> 〔前期〕 ローマ史と中世からルネサンスのイタリア史を語る。 〔後期〕 ルネサンス末期から近現代のイタリアを眺める。			
<b>【成績評価の方法】</b> レポートと期末テストによる総合評価。	<b>【参考文献】</b> G. プロカッチ『イタリア人民の歴史』Ⅰ・Ⅱ、未来社 藤澤道郎『物語 イタリアの歴史』（中公新書）、中央公論新社			
<b>【教科書】</b> イタリア地方文化理解のための歴史年表（プリント配布）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（フランス文化） （旧フランス文化研究）		通 期	4 単位	赤 瀬 雅 子
<p><b>〔講義概要・学習目標〕</b> 文化とは何か、この定義は、あるいは時代により、あるいは地域により、大きく異なる。ここでは平易に、形而上的な文化と、形而下の文化との両様を考えてみよう。前者においては、例えば現代思想・現代文学の方法論・現代数学等で、フランスは世界の先端を趨っている。後者においては、例えばインテリア、ファッション、料理、装飾美術等において、フランスはやはり世界の流れをリードしていることは周知の事実である。 またその地位を英語に譲ってはいるが、かつての国際語であつたフランス語の優位性を復活させようという意欲も大きい。 この講義は基礎研究であるから、平易な説明を通して、このような文化を生んだフランスの歴史・地理の基礎的知識を学ぶ。 それと同時に、異文化としてのフランス文化に触れたことをきっかけに、この文化を深く学ぶようになった研究者の実体験や、これに関する論述を通して学んで行く。</p>		<p><b>〔講義計画〕</b> 基礎科目においては、百科事典的知識は、是非とも必要である。フランスの歴史・地理・政治・経済等に関する基礎的な知識を学ぶ。しかしそれはこの講義の最終的な目標ではない。この文化を創った人々の気質等に触れ、浅いフランス体験から書かれた書物等からは学び得ない、具体性を備えたテキストを精読する。</p>		
<p><b>〔成績評価の方法〕</b> 前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。</p>		<p><b>〔参考文献〕</b> 小林善彦著『フランス学入門』（白水社）</p>		
<p><b>〔教科書〕</b> 小林善彦著『フランスの知恵と発想』（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化概論	0 1 0 2	通 期 通 期	4 単位 4 単位	小 林 信 彦
<p><b>〔講義概要・学習目標〕</b> 人間の暮らしに便利さをもたらすアイデアは、容易に異文化圏から取り入れられる。しかしながら、人間の生き方を根本のところ規制する原則は、簡単に置き換えが効くものではない。古代の日本に仏教が伝わったと言われるが、はたして日本人は従来の世界観に替えて異文化圏の世界観を採用したのだろうか。そういうことが起こるには、インド文化と日本文化とのギャップが大き過ぎた。 この授業では、仏教に対処した古代日本人の発言に着目し、これを仏教文献の記述と比較することによって、日本文化とインド文化の決定的な違いを浮かび上がらせたい。そして、この作業を通じて比較文化研究の方法を提示したい。</p>		<p><b>〔講義計画〕</b> 一度にあまり多くの事象を取り上げようとする、不要な混乱が生じる恐れがある。そこで、まず一点を深く掘り下げた後で、それに関連する多くの事象に触れる。「狭い問題を取り上げて広い知識を与える」という方法で授業の成果を上げたい。教室で扱う資料はそのつど複写で配布する。</p>		
<p><b>〔成績評価の方法〕</b> ① 一つの課題を終えるごとに授業内容の要約を提出させる。 ② 学年末に試験を行う。</p>		<p><b>〔参考文献〕</b> 必要なものは複写して配布する。</p>		
<p><b>〔教科書〕</b> なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	林 宅 男
<b>【講義概要・学習目標】</b> 言語学とは言語の本質、構造、使用の規則等を科学的に研究する学問である。その研究内容や方法は多様で関連領域も広く、近年特に急速に発展を遂げてきたが、それが共通に目指しているところは言語を通しての人間そのものの理解であると言えよう。このことを念頭におきながら、本講義では、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、といった狭い分野にとどまらず、動物言語研究、社会言語学、言語習得論、文体研究、非言語コミュニケーション論を含む幅広い範囲にわたって、最近の動向を含めて出来るだけ分かりやすく紹介したい。更に、我々に最も身近な言語である日本語については、別にその諸相を解説する。ここで扱うのは何れも言語学の概観であるが、その知識、ものの考え方、研究方法が、言語学研究のみならず、人間・人間社会についてのより深い理解や、思考の練磨につながることを願う。	<b>【講義計画】</b> 1. 「言語学」とは何か 2. 動物の「ことば」と人間の言語（動物言語研究） 3. 比較言語学（言語の起源と世界の言語属） 4. 言語音の体系（音声学・音韻論） 5. 語の構造（形態論） 6. 文の構造（統語論[生成文法]） 7. 言葉の意味と運用（意味論・語用論） 8. 言語と社会（社会言語学） 9. 言語とところ（言語習得論・言語心理学・言語人類学） 10. 言葉によらないコミュニケーション（非言語コミュニケーション論） 11. 日本語の諸相 12. 言語と文学（文体研究）			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席、授業態度、レポート、試験を総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b> ジョージ・ユール（著）今井邦彦・中島平三（訳）『現代言語学20章』大修館書店、1996 中島平三・外池滋生『言語学への招待』大修館書店、1994 ジーン・エイチソン（著）田中春美 ほか（訳）『入門言語学』、金星堂、1998年 小泉保（著）『日本語教師のための言語学入門』大修館書店 田中春美 ほか（編）『現代言語学辞典』成美堂、1988			
<b>【教科書】</b> 石黒昭博 ほか（編）『現代の言語学』金星堂、1996年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域文化概論	01	通 期	4 単位	井 本 英 一
<b>【講義概要・学習目標】</b> 世界の各地域の文化は多岐にわたる。文化にはいくつもの核に成り立ちがあり、それらは普遍的なものである。その一つに聖性についての観念がある。人生の通過は、死と再生の儀礼を経なければ完了しない。正月と盆、春秋の彼岸がこれだ。欧州の5月1日のメーデーと11月1日の万聖節もこれにあたる。	<b>【講義計画】</b> 上社と下社、2つの大嘗会、死者と獣皮、人間と野獣、始祖と動物、2つの祭壇、葬礼と喰儀、正月の構造、生命の光と死の光など、二元論的構造を解説する。			
<b>【成績評価の方法】</b> 達成度により評価する。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 井本英一『聖なる伝承をめぐって』法政大学出版局				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域文化概論	02	通 期	4 単位	井 本 英 一
<b>【講義概要・学習目標】</b> 地域文化はそれぞれ独自に発展し、一方、たがいに交流し影響し合った。日本、韓国、中国、インドをはじめ、古代西アジア、ギリシア・ローマの広大な地域には、あの世を訪問して帰ってくる、いわゆる異界下りの文芸がある。古来、臨死体験者は多かったらしく、それぞれが地域で黄泉路がえりの文芸として発達した。文化には、この世とあの世の接触と交流の問題が底辺にある。死者の世界に住む祖先は、人間の姿としているとは限らず、野獣になっている場合もある。夢と通じた異界との交流にも触れたい。	<b>【講義計画】</b> 臨死体験と文芸、異界としての山の信仰、うば・棄て山伝説、ト・テムと始祖、夢中放屁、夢と賢い話、味噌買・橋について通年講義する。			
<b>【成績評価の方法】</b> 達成度により評価する。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 井本英一『夢の神話学』法政大学出版局				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化史	01 02	通 期 通 期	4 単位 4 単位	横 井 清
<b>【講義概要・学習目標】</b> 日本の文化について歴史的に通観する。総じては、日本文化史上の重要な事象について、使用教科書の記述によりながら、初歩的・基礎的な「知識」を身に付けるようにしていきたい。その上で、本学が教育理念の根本におく「国際的な視野」に立って日本文化を見直して行くための手掛かりを得させたい。	<b>【講義計画】</b> 使用教科書の章編成にしたがい、「原始」「古代」「中世」(前期)「近世」「近代」(後期)の見込みに立って、順次解説を進めたい。			
<b>【成績評価の方法】</b> 学年末の筆記試験による。	<b>【参考文献】</b> 必要に応じて随時授業の中で紹介する。			
<b>【教科書】</b> 家永三郎著『日本文化史(第二版)』(岩波新書)毎時間必携。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		通 期	4 単位	有 川 康 二
<b>【講義概要・学習目標】</b> 次の日本語学習者の質問に答えてほしい。「『は』に濁点がつくと『ば』。でも、『な』に濁点の『な』が発音できないのは何故?」「大(おお)+型(かた)=おおがた(連濁あり。×おおかた)なのに、何故、大(おお)+風(かぜ)=おおかぜ(連濁なし。×おおがぜ)なのか。」「『私は田中です』と『私が田中です』はどこがどう違うのか。」 答えられなくても心配御無用。(簡単に解答されてはこのような問題を飯の種にしている人達(=教師)が困ります。)日本人なら誰でも日本語を「使う」ことはできるが、その複雑な仕組みについて原理的に「説明する」ことは出来ない。(脳味噌は誰でも使えるが、脳味噌の中で何が起っているのか説明できないのと同じ。)日本語学を次の三つの視点から概論する。(1)生物言語学の視点=霊長目ヒト科哺乳類の奇形的に腫れあがった脳のニューロン群の働きの一例としての日本語。(2)教育学の視点=日本語を母語としない者が効果的に日本語を習得する為の実用的な説明。(3)哲学の視点=「自分とは何者か」という問いを(暇な時に)考えるための手がかり。	<b>【講義計画】</b> <前期> 1. 文字と音 (e.g. 音素と発音の関係、拍、濁点など) 2. ことばの単位 (e.g. 連濁、形態素、活用など) <後期> 3. 文の成り立ち (e.g. 必須補語 vs. 副次補語、c-command、取り立て助詞「は」、埋め込み文、テンスなど)			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席・筆記試験	<b>【参考文献】</b> 野田尚史『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版)			
<b>【教科書】</b> 上山あゆみ『はじめての人の言語学-ことばの世界へ』(くろしお出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
異文化間コミュニケーション論		通 期	4 単位	遠 山 淳
<b>【講義概要・学習目標】</b> 講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、普遍文化と個別文化との関係、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。 情報は文化を生成し、文化は人間に対して規範的に係わる。異文化間コミュニケーションの最大の問題は自文化なのである。さて諸君は自文化を越えられるだろうか。	<b>【講義計画】</b> 1. 異文化間コミュニケーション論とは 2. 「文化」とは：静態と動態、定義、情報代謝理論 3. 自文化中心主義と文化相対主義 4. コミュニケーションの志向性と型、動因と文化型 5. 言語と文化 6. 非言語コミュニケーション 7. コミュニケーション能力と言語能力 8. コミュニケーションの文化型：片立文化と両立文化 9-10. コミュニケーションの比較：日本とアメリカ 11. 「理解」法の比較 12. 定量的方法と定性的方法、特徴と限界			
<b>【成績評価の方法】</b> 前期末、学年末に試験またはレポートを課し、総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b> 遠山他著 石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993 古田暁編・石井・久米他著『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987 祖父江孝男『文化人類学入門 増補改訂版』中公新書、1992			
<b>【教科書】</b> 遠山他共編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣、1998				